

# 語り継ぐために

～東日本大震災体験アンケート報告集～



自治労銚子市役所職員労働組合

あの日を忘れない ～貴重な体験を記録に～

忘れたくても忘れようのない日、2011年3月11日からすでに2年半が過ぎようとしています。

震災前は「そんな地震や津波など起こるはずがない」と勝手に思い込み、震災に遭遇した後は、誰しもが「備えが必要」と考えを改めたものの、時の経過とともにそれらは「もう二度と起こらないのではないか」に変化し、人々の脳裏から薄れつつあるのではないのでしょうか。

私たち銚子市職労は、あの日にあったこと、そしてそれ以降の出来事を決して忘れてはいけない、風化させてはいけないものと捉え、あの時、市職員として様々な場所で見、聞いた貴重な体験を記録として残すことを、地方自治研究活動の一環として取り組むこととしました。

これまでも市民の側から見たアンケート調査や意見、要望等はすでに数多く集約されているものと思われますが、今回、市職労が実施した調査はあくまでも市の内側からの視点を基本とし、現在、市に在職するすべての職員、そして退職されている元市職員による様々な体験等を対象としました。

私たちは調査を実施した結果、改めてこの震災に対する市職員等の関心の高さを認識させられました。当初の予想をはるかに超える75%という回答率、そして多くの皆さんから寄せられた貴重な体験談やご意見には、将来に残すべき教訓等が数多く含まれています。

集約した内容では、まず多くの方が地震、津波という自然の脅威と人間の無力さを思い知らされたとし、情報が遮断された状況にも恐怖を感じたと回答しています。また、ライフラインが確保されないことが不安を増幅させるということも多くの方から実体験として示されました。そのような状況下で一番大切なのは地域における助け合いやつながりであり、実際に地域住民をはじめ、消防団、教職員、大学生等の協力により、救援活動がスムーズに行われたとの回答が多数ありました。

しかし、その反面、防災計画が大きく混乱し、機能しなかったとの意見、批判も多くの方からいただきました。また、避難場所や避難方法の確認など、実態に即した避難訓練、情報伝達訓練の必要性についても多くの方から訴えがありました。さらに情報不足により、避難所等で状況に応じた活動ができなかったことや住民からの質問、要望等に対応できず、職員としてもどかしさを感じたとの感想もありました。

また、救援活動に従事するにあたり、「夫婦二人とも公務員だからという理由で、小さな子どもや老親を残したまま、災害対策要員に組み込まれても対応できない。職務をとるべきか、家庭をとるべきか」、「自宅の被災状況等もわからない中で、平常心で任務につけるか」、「大津波警報が出ている中、被害の危険性のある地域で従事する義務」など、職員としてのあり方、義務についての意見も多くあり、これらは今後、対策を講じる中での課題として、充分検討していかなければなりません。

今回、調査した中で特徴的なデータとしては、「災害に備えた準備は」という質問

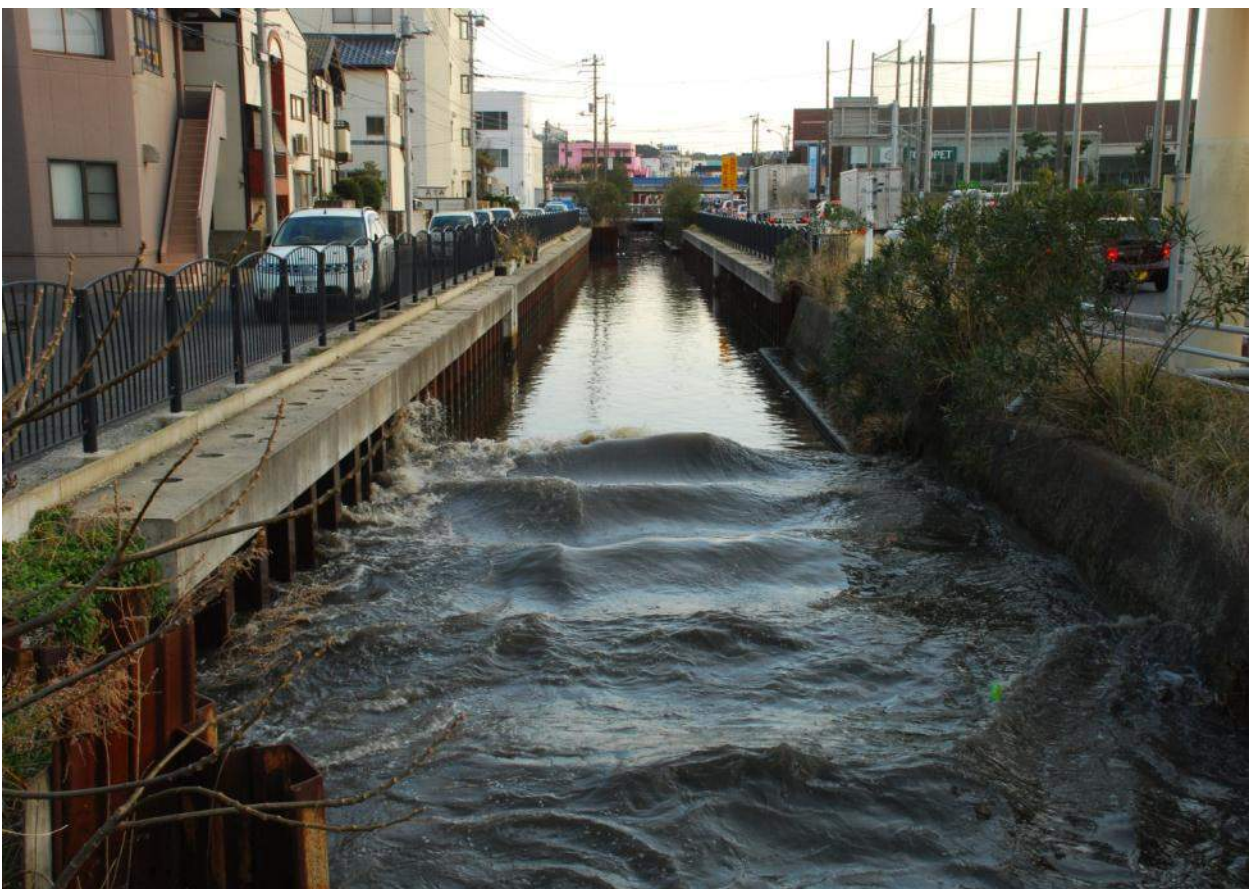
に対し、60%近くが「している」と回答しているものの、「当初はしていたが現在はしていない」という回答が20%強あり、問題意識が時間の経過とともに薄れつつあることが明らかとなりました。また、これと「していない」を合わせると、現時点では約40%の方が災害への備えをしていないという結果となりました。

人間が自然の脅威に立ち向かうのは難しいことですが、少しでもその被害を減らせるならば、やはり事前の対策はとても重要です。

これらのように回答の中には、今まで想定になかったような貴重な意見や備えに対する提案も数多く含まれています。これらが今後の災害対策に向けた参考になることを期待し、いただいたご意見等は原則として全文掲載することとしましたので、ぜひともお読みいただけますようお願いいたします。

この調査、集計を終え、ここでようやく結果を公表するに至りましたが、いちばん大切なことは、私たちが自治体職員として、今後この結果をどのように活用していくかです。今回、多くの方からいただいた貴重な意見、教訓等を地域の防災計画等に活かすことが求められており、そのためには私たちもさらに努力をしていかなければならないと考えています。

自治労銚子市役所職員労働組合  
執行委員長 高橋 智 明



市内清水川に押し寄せる津波（2011年3月11日午後4時33分）



## アンケート実施結果

|        |       |                          |
|--------|-------|--------------------------|
| 1 実施期間 | 退職者会  | 2013 年 4 月 22 日～5 月 10 日 |
|        | 現役職員等 | 2013 年 5 月 29 日～6 月 14 日 |

### 2 配布数

| 総 数   | 市役所 | 水 道 | 消 防 | 退職者会 |
|-------|-----|-----|-----|------|
| 1,015 | 595 | 50  | 120 | 250  |

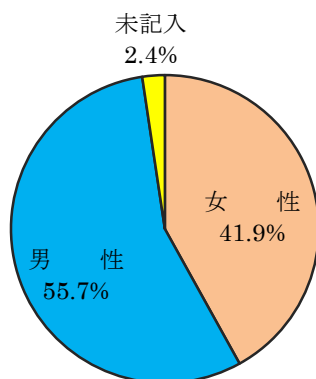
### 3 回答数(回答率)

| 総 数    | 市役所・水道・消防 | 退職者会   |
|--------|-----------|--------|
| 763    | 601       | 162    |
| 75.17% | 78.56%    | 64.80% |

### 4 回答者の内訳

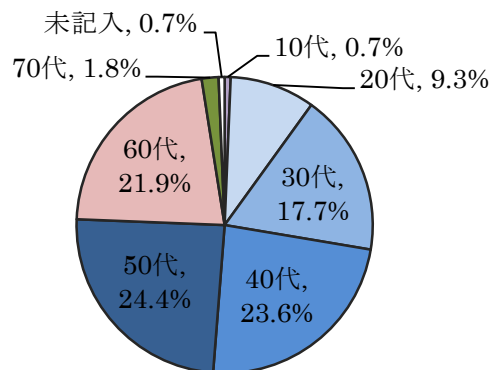
#### I 性別

性別構成比率



#### II 年齢

年齢構成

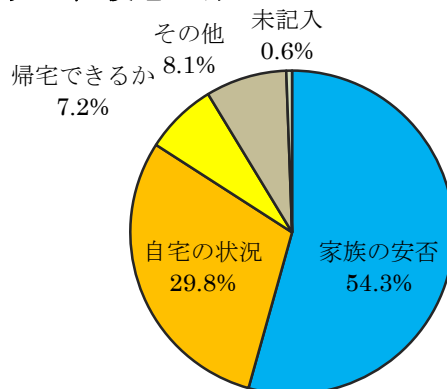


### 5 回答結果

Q 1 あなたは東日本大震災（以下「震災」とする）発生直後に何が思い浮かびましたか？（複数回答可）

発生直後思い浮かんだこと

※複数回答あり

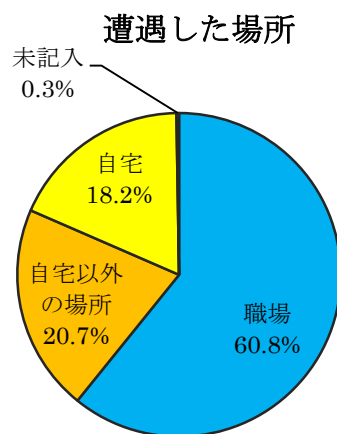


※この質問に対する回答は当然の結果として、圧倒的に「家族の安否」と「自宅の状況」が多数を占めました。しかし、外部施設等に勤務する職員からは、次

のような回答が数多く示され、他にも職場や被害状況を危惧する回答が多くありました。

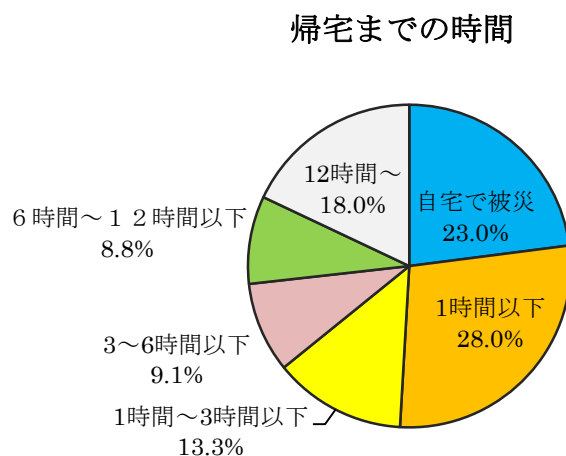
- ・施設入所者の状況
- ・保育所の児童全員を少しでも早く安全な場所へ避難させること。そしてケガなく保護者へ返すこと
- ・阪神淡路大震災が頭によぎり、街中がどうなっているか不安だった
- ・水道施設の被災状況
- ・ライフラインの混乱による生活全般の心配
- ・経験したことのない大きな揺れに「この世の終わり」かと思った
- ・自分は死ぬと覚悟した

## Q 2 あなたはどこで震災（14:46）に遭遇しましたか？



※この質問についても圧倒的に職場という回答が多い結果となりましたが、出張先や外出時に移動中の車内で遭遇した方も多く、中には北海道や群馬県など旅行先で遭遇した方もいました。

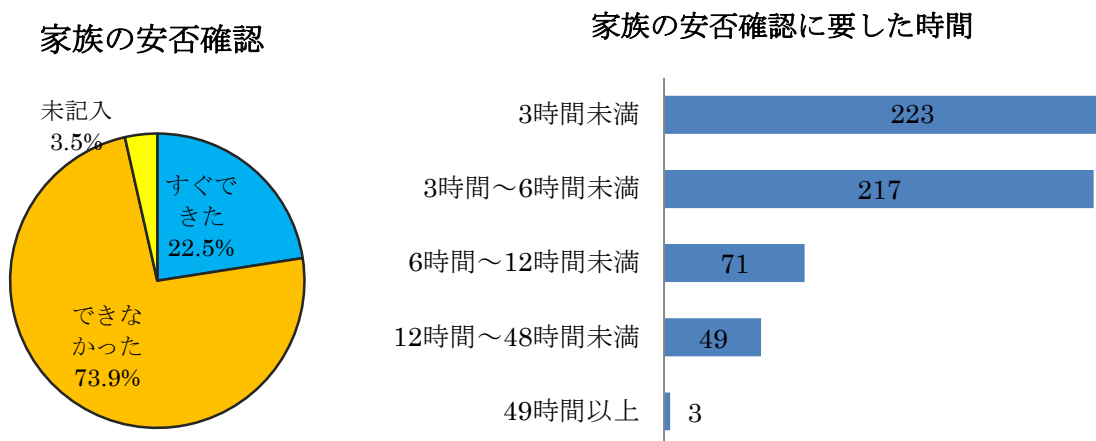
## Q 3 震災当日（勤務終了後）、どれぐらいで帰宅できましたか？



※勤務に引き続き、長時間、災害対策本部や避難所の対応等に従事した職員が

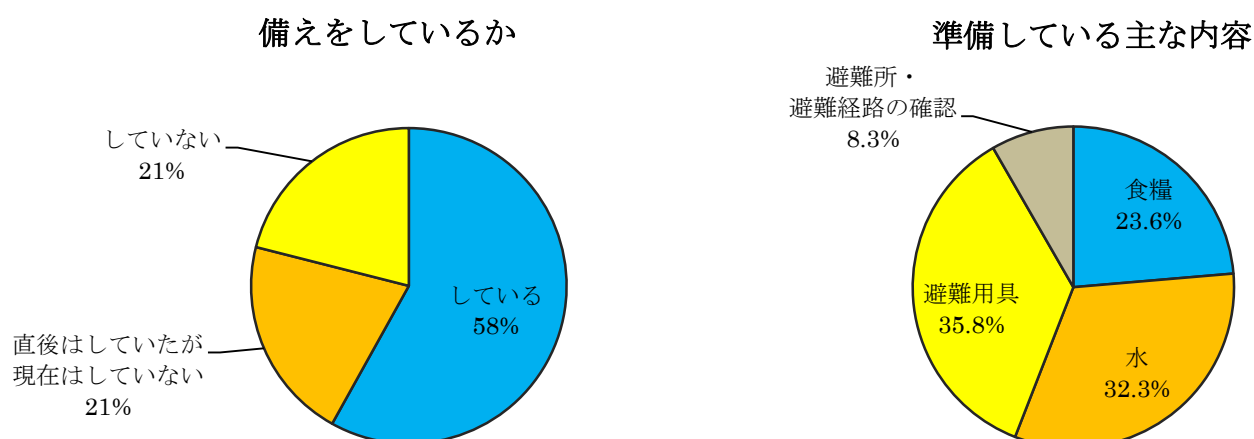
多数を占めており、最長では帰宅できるまで 72 時間という回答がありました。また、その一方で自宅で遭遇した方のほかに通常時と大差なく帰宅した職員も多くおり、多様な結果となりました。このことは本来ならば未曾有の大災害であり、大部分の職員が何らかの任務に就くべきだったはずですが、当日の指揮命令部分で混乱が生じていたことを表しているものと思われます。

#### Q 4 家族等の安否確認ができたのは、震災発生からどれくらいですか？



※この質問については、家族と同じ場所で被災した方以外は、大多数が安否確認できるまでにある程度の時間がかかったという結果となり、最大で 72 時間を要したという回答もありました。これらの要因は携帯電話等の不通によるものが多く、災害時の情報伝達ツールの整備が必要不可欠であると考えられます。

#### Q 5 震災後、あなたは災害に備え、何か準備していますか？



※この質問は当初の調査項目としては含まれていませんでした。しかし、調査を先行して実施した退職者の多くから、震災に対する備えとして、様々な意見や提案が示されたことを受け、このことはとても大切なことであると考え、

現役世代への質問項目として追加したものです。

結果としては、何らかの準備をしている方が半数以上いる反面、約 21%の方は震災後は準備していたが、現在は何もしていないという回答になりました。元々備えをしていないという方が同じく 21%いることも問題ですが、この結果は時間の経過とともに意識が変化しているということを如実に表しているものと考えられます。なお、準備している内容としては、回答の多くが食糧、水、避難用具等に集約されますが、具体的な備えとしてたくさんの方から貴重な事例が示されているため、参考にこれらを列記しておくこととします。

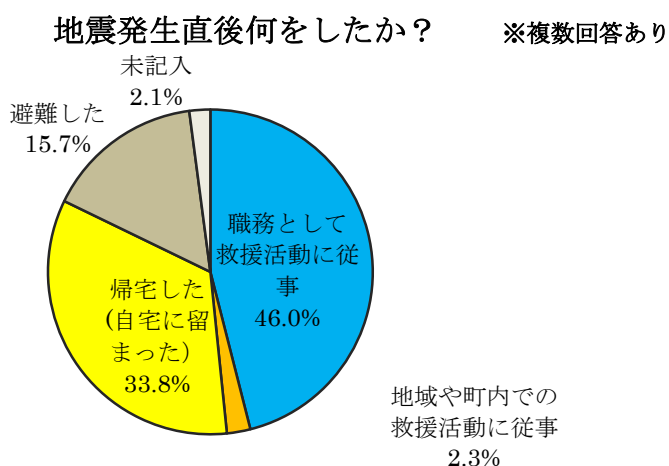
#### [震災後、備えを行った、または行っている特徴的な事例]

- ・井戸を掘った
- ・残り湯を流さずトイレ用に
- ・着替え等を車に
- ・家具の転倒防止
- ・財産関係など貴重品をまとめた
- ・米を無洗米に変えた
- ・ガソリンをこまめに給油し、常に満タンに

#### [震災後、常備している物の特徴的な事例]

- ・アルファーマの常備
- ・ガスコンロ
- ・リュックに入れた避難グッズ
- ・簡易トイレ
- ・子供のオムツ、着替え
- ・ヘルメット
- ・雨ガッパ
- ・運動靴
- ・発電機
- ・消費期限切れの水（トイレ、手洗い用）
- ・職場のロッカーにズボンとスニーカー
- ・車の中に寝袋
- ・ランタンなど野外生活用品

#### Q 6 あなたは震災発生後、何をしましたか？（複数回答）



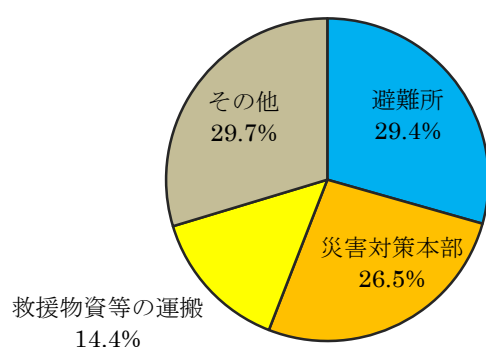
※回答のあった約半数の方が、震災当日以降何らかの形で職務としての救援活動に従事しており、他には退職者を中心に地域や町内での救援活動に従事した方も多くいました。また、救援活動への従事後も含め、帰宅し自宅に留まった方に対し、避難した方は半数以下の結果となりました。避難した方の大多数は避難所や高台と回答していますが、中には東京へ出かけたまま帰宅難

民となってしまった方や車の中で夜を明かしたという回答も見られました。

Ｑ６で１（職務として救援活動に従事）、２（地域や町内での救援活動に従事）と答えた方にお伺いします

Ｑ６－① 主にどこで従事しましたか？

どこで従事したか？



※圧倒的多数が職場や避難所との回答でしたが、退職者からは町内の見回り（高齢者宅訪問等）や被災家屋の片づけ、高齢者施設での避難の手伝いなど、地域での活動に従事したとの回答も多く見られました。また、消防職場からの回答と思われますが、津波被害の危険性がある海岸沿いで避難広報に従事したなど、災害の最前線に出向いていたとの回答が多数見られました。さらに保育所や学校職場からは子どもたちを安全に保護者のもとへ返すため、遅くまで職場に残り対応したとの回答も多くありました。

なお、特徴的な回答としては、被害の大きかった旭市飯岡地区へおにぎりを大量に作って運んだという方をはじめ、飯岡地区でのボランティア等、市外での活動に参加したという回答も多く見られました。

Ｑ６－② 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？

※多くの方から現場での様々な体験等の報告がありました。全体の中で目立った回答は、指示命令系統の混乱や情報不足による救援活動先でのとまどい、大津波警報発令中にも関わらず、海岸や利根川沿いに津波を見に来ている人がいたことへのいらだちなどでした。また、食料品の買いだめなど反省すべき点についても言及がありました。一方、良かったこととして、消防団や教職員、地域住民等による助け合いなどについても多くの方から回答がありました。なお、すべての回答は資料編に掲載することとし、特徴的な内容を以下に記載します。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに必要な物（水、食料）が店頭から無くなり、震災後の買いだめ（必要以上）が見受けられた（多少の我慢は必要）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所勤務（保育士）のため、とにかく子どもたちを守らねばという気持ちが大きかった。普段から避難訓練は実施しているが、もし建物が崩れてきたら全員をどのように守れるかと命を預かる重さを強く感じ、同時に怖いと思った</li> </ul>                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所にペット（大型犬）を連れて来ていた避難者がいたが如何か</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすれば良いか、具体的な指示もマニュアルもなかったため、自ら考え判断して対応しなければならなかった</li> <li>・避難所となった学校の教職員がとても協力的で様々な場面で助けられた</li> </ul>                                                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示系統や情報がわからず、ただそこにいるだけという感じだった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報不足で市民に聞かれても答えられなかった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人が救援活動に出ていて、自分は妊娠中で他に小さな子どももいてとても不安だった。公務員ということで夫婦とも救援活動ということも考えられるが、今の状況では無理。災害対策には人員として組み込まれているが難しい。他にも小さな子がいたり、老親がいる人はどうすれば良いのだろうかと思った</li> </ul>                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示命令系統がうまく機能しておらず、いらだちを感じた。ある程度、自己判断で行ってしまったところもあり、本当にそれで市民のためになったのだろうかと思う</li> <li>・広報活動の際、避難を呼びかけたが、大津波（10m）は絶対に来ないから避難しないとされたため、何もできず、結局広報活動しかできなかった</li> </ul>                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の避難放送がされているのに、利根川付近に見物に来ている人がいた</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波広報中、海岸へ近づく市民がいたことが残念だった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団が停電している中、投光器を点けたり、プールの水をトイレに運んだりと活躍してくれた。また、先生方もそれ以上にリーダーシップをもって活躍してくれた。避難している人は身体が動く人も避難民という意識が強く、まったく協力してくれない人が多かった</li> </ul>                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・水と空気はあって「当たり前」がそうでなくなったときの職員の対応の難しさ</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波が来るといわれている中、海岸付近の住民に対して、広報活動をしなくてはならず、こうした災害時の災害対策本部のあり方を検討すべき</li> </ul>                                                                                                                                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性2人で避難所の夜間当番をしたが、女性の避難者には相談しづらいこともあったのではないか</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所等の交代要員を考慮すれば、もっと多くの職員を配置すべき。特に平日に限定すれば、状況に応じて勤務終了後、要員を職場に待機させるべきと思う。今回の震災時は帰宅した（させた）職員が多く、以降携帯電話等の不通により登庁要請ができなくなってしまった。結果、災害時の配備計画ではなく、職場に残っていた職員による災害対応となってしまった</li> <li>・偶然、避難所要員となってしまったため、当初は物資の配送しかできなかった。避難住民の名簿作成など最低限行うべき任務をマニュアル化し、年に1回程度は配布もしくは公開すべきと思う</li> </ul> |

Q 7 東日本大震災を経験し、自分の周りで見たり聞いたりしたことで、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください。

※この質問に対しては、多くの方が地震、津波への恐怖を様々な形で表現されています。同時に実状に即した防災(避難)訓練の実施と情報確保、そして災害に対する備えの必要性についても多くの方が言及しています。さらに障がい者(児)、高齢者をはじめ、市外からの避難住民や外国人など、災害弱者へのきめ細やかな対応については具体的な意見が示されています。また、防災計画の実効性や職員(公務員)としての義務についても多くの方から意見があり、具体的には避難所等における配置の考え方や運営上のマニュアル化に関する内容が多くを占めました。なお、前項と同様にすべての回答は資料編に掲載することとし、以下に特徴的な内容を記載します。

|                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震後、携帯が通じず情報がすべて遮断された状況に恐怖を感じた</li> <li>・赤坂から自宅まで帰宅しようとしたが、JR,地下鉄等ストップしたままで、徒歩で東京駅まで行ったがデパートの入り口は閉ざされ、コンビニ等も品物が売り切れ状態で食糧の確保に苦労した</li> <li>・銚子までの帰途、国道14号線沿いの一般家庭の方が徒歩で帰宅する人々にお茶等を配っていたことに感動した</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、自分の身が安全であれば、他人を助けることができる。このことから第一に自分の身を守ることが必要</li> </ul>                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・あの時の地震の怖さ、恐ろしさ。これからどうなるか、どうしたらいいか何もできなかった。直後は避難袋等も用意していたが、今は中身の確認もしていない。災害は忘れたところにやってくる、この言葉をかみしめています</li> </ul>                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災時、仕事を優先するか、家族を優先するかが心配の種である。どうしても仕事中心に行動し、家族のことが後回しになってしまう。電話が通じず、家族の安否を確かめようがなく困った</li> </ul>                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興の足かせになっている放射能の恐怖。土壌、地下水、海洋汚染、ありとあらゆるところに表れ、人々を苦しめている。いつまで続くかわからない。原発に代わるエネルギー政策を再構築すべき</li> </ul>                                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・動員配備計画に異議あり。役割分担しておきながら、具体的にすべきことや手順などが何も決まっていない</li> <li>・市内の避難所はその地域に住んでいる職員を配置すべき。所属で割り振るのは現実的でない</li> <li>・職員の防災意識を高めるために、市役所でも避難訓練を実施すべき。さらにひとり一人が何をすべきかを明確にした対応マニュアルを作成すべき</li> </ul>              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の開設は学校の教職員がいる時間だったため、スムーズにいったが、夜間に災害があった場合、同じようにできたか不安である</li> </ul>                                                                                                                                  |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・庁舎の停電により、庁舎内のほとんどのテレビが見ることができず、タイムリーな情報が得られなかった。唯一見ることができた日直室のテレビを玄関前ホールに持っていたことが思い出される。今、何が起きているのか、そしてそれに対する対応はどうすれば良いのか、情報を得る手段を確かなものにしておくべき</p>                                                                                                                          |
| <p>・人間は忘れる生き物。いずれこの震災の記憶というの薄れていくと思われる。この記憶を忘れないようにしていくことこそが将来に残すべきこと</p>                                                                                                                                                                                                       |
| <p>・災害の詳細な記録は将来へ語り継いでいかなければならない。この震災を体験し、幸せの価値観が変わった。水が水道の蛇口から流れ、電気のスイッチをつけると明るくなる。そんな小さな幸せを感じられるようになった。また、普通に日々暮らすことのできる幸せをうれしく思う</p>                                                                                                                                          |
| <p>・叔父、叔母、そしてその孫が津波で亡くなっている。叔父は遺体が見つかっていない。福島原発から 20km 圏内とあって、自分たちで捜すことすらできないでいる。使用済み燃料の処分方法も定まっていない状況で、人間がまだ手を付けていけない領域なのではないかと思う。また、自宅も瓦が落ちたり、いまだ余震の中でどうなるか心配。災害に備えるよう心掛けたいと思う</p>                                                                                            |
| <p>・震災以前は地震が起きても「すぐ止むだろう、津波は起きないだろう」と根拠もなく、安易な考えを持っていた。3. 1 1 から時間がたった今、願望も込めて、「もうあんな地震は起こらないだろう」と、つい思ってしまうが、このアンケートを通し、3. 1 1 の経験を忘れてはならないと再度気付かされた</p>                                                                                                                        |
| <p>・旭市で被災した友達の話だが、津波の警報を聞き、2度避難したものの3度目は「大丈夫だろう」という気持ちで避難しなかったとのこと。するとそこへ津波が来て、彼女は夢中で屋上へ登り、間一髪命拾いをした。屋上から見たものは購入したばかりの愛車が流される様子だった。もっと早く、もっと遠くへ逃げていればと後悔していた</p> <p>・毎日のようにテレビの悲惨な報道を観ていたときは「忘れるはずがない」と思っていたのに、薄れてきている意識の中、このようなアンケートにより、絶対に忘れてはいけないという思いが蘇ってきた。ありがとうございました</p> |
| <p>・のど元過ぎれば・・・で当時用意していた水、食料なども期限切れとなっているかもしれない（確認も怠っている）。月に一度、定期的に見直す日を設けようと思っている。今回は自分の家族や周りの人は大丈夫だったが、「他人事」として切り離していいものではない。常に考えていくべき</p>                                                                                                                                     |
| <p>・障害児の施設勤務。当日、障害児は奇声、パニックなどで避難先にいることができず、ほとんどの避難家族は車中で過ごすこととなった。福祉避難所として老人には目が向けられているが、障害児に対しても配慮が欲しい。また、特別な知識を持つ人材も避難所には必要。東北ではそういうボランティアも入っていたし、マニュアルもあった。障害のない人もある人も同じ場所にいるための特別な配慮が必要と思う</p>                                                                              |
| <p>・被災時に子供が小さかったり、妻が妊娠していたこともあり、老人を含めた避難弱者に対しての配慮が大切だと感じた。特に食糧（ミルクなど）や衣類（オムツなど）がないと代用できるものがないので非常に問題となる。これを機にもっと市全体で連携を取</p>                                                                                                                                                    |

|                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>り直すべきと思う。今は各担当がバラバラに動いていて、まったくまとまりがないと感じている</p>                                                                                                                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波等の警報が出ている場合、危険性のある救援活動に従事する義務はどこまであるのか</li> </ul>                                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・市全体、職員全体で市役所としての災害対策を共有すべき。旭市役所は防災訓練を全庁的に行っていると聞いている。市職員に対するヘルメットの支給なども行われておらず、また災害があった場合、混乱すると思う</li> </ul>                                                                                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では高台までクラスごとに移動する避難訓練を行った。子どもたちひとり一人が自分の足でどのくらいの距離を歩けば、安全な場所まで行けるかが実体験としてわかったと思う。「てんでんしのぎ」という言葉は今まであまりいい意味で使われていなかったように感じるが、自分の命は自分で守るという意識を持つのは大切だと思う</li> </ul>                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・長い時間の揺れに対して、徐々に慣れていく自分がいた</li> </ul>                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は必要だが、より現実に応じた訓練内容とすべき。地震と津波では避難の場所、方法が違うはず</li> <li>・行政対応（避難所開設等）について、職員の交通手段や距離等を考慮すべき。もっと身近な町内会等との連携が必要</li> </ul>                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害協定が機能しないことも考えて、災害備蓄に介護用紙オムツと生理用品を</li> <li>・災害時を想定した職員間の情報共有訓練も必要ではないか（動員計画は機能しているのか）</li> </ul>                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家族は無事だったので、公務員として救援活動をすることができたが、もし連絡がつかなかったり、何かあった時に平常心で仕事ができるか・・・と考えてしまった</li> </ul>                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・現実的には難しいことは承知しているが、家族の安否や自宅の状況などを気にかけながら任務についていては、本来の力を発揮できない。短時間で構わないので、交代で一度は自宅の状況等を確認させることも考えてほしい</li> </ul>                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・停電や断水により、普段「当たり前」に使っていた物が使えず、水や電気の有難さが身にしみた。避難所にはテレビもラジオもなく、車の中で東北地方の津波被害を知ったが、情報が少なく、とても怖い思いをした</li> <li>・避難所の運営も学校の先生方や地域の消防団が活動してくれ、特に消防団の皆さんはトイレを流すため、プールから水を夜通し汲んだり、安否確認や利根川沿いを警戒しに行ったりしていた</li> </ul> |



## 『語り継ぐために――東日本大震災体験アンケート報告集』に寄せて

一般社団法人千葉県地方自治研究センター

理事長 宮崎伸光(法政大学学生センター長・法学部教授)

私は、この銚子市役所職員労働組合が実施した調査研究を賞賛したい。

市役所の職員であれば、いや特別、市役所の職員に限られた話でもないが、誰でも大きな災害など人知を超えた非常事態が起きるかもしれない、いつ起きても不思議ではない、ということはわかっている。突然の非常事態に直面したとき、通常の市役所業務をさておいて、特別な対応に当たらねばならなくなることに、それも時を置かずにまさに急迫することがあり得ることもわかっている。さればこそ、そうした危機に備えて平時のうちに危機管理マニュアルや防災計画等を策定することが必要とされ、実際に備えられている。

と、ここまでの話には「ホンネ」も「タテマエ」もない。「ホントウ」のところは、その先にある。すなわち、こうして事前に用意された突発的非常事態に対する計画では十分な対処はできないだろうと、誰もが薄々は感じている。

さて、この薄々の不安が的中したとき、すなわち実際に危機が突然訪れたとき、人は、組織は、どのように対応をするだろうか。

2011(平成 23)年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、銚子市役所をもまさに大きく揺るがした。発災直後は、その地震がどれだけの規模であり市内にどれほどの被災をもたらしたかなど知る由もない。市役所の内部は、明らかに混乱した。

薄々の不安は、的中してしまった。その事実は、地震そのものとは別種のショックをも引き起こした。このもう 1 つの衝撃が、本調査研究の原動力に繋がった。

誰もまた、体験した事実に関する記憶が、時を経て薄れることも知っている。さればこそ、記憶から記録へ、認識から運動へと活動が展開した。一人、あるいはごく少数者の体験に止まらないよう調査へと進む方向に、迷いはあったかもしれないが、誤りはなかった。

市役所職員の労働組合であればこそその自負もあっただろう、同時にわきまえるべきところもあつたに違いない。市役所を退職された方々への調査がいわばパイロット調査の役割を果たし、結果として二段構えとなったアンケート調査は、対象を市役所職員等とその退職者に限っている。この限定は、繰り返し問い直すことで純化された調査企画者の問題意識に禁欲的に応じており、本調査をユニークなものとするとともに、その価値を飛躍的に高めている。

回答者が真摯なる応答をしたことも特筆に値する。4 分の 3 を超える回収率は、極めて高く、その自由記述回答には味わうべき内容が極めて多い。実施前の迷いや不安は払拭され、逆にとりまとめと成果の還元企画者は頭を悩まされることになった。

さて、ここでどうしても触れておきたいことがある。それは記憶ないし記録に残る被災直後の市役所職員の行動についてである。危機に直面した人の行動に対して、時

を経て冷静な目をもって批判を口にするには、あるいは容易いことかもしれない。しかし、その場にいなかった者には、自身に批判する資格があるかどうかの自問を先に求めたい。おそらく無条件で批判を述べるができる者は皆無に近い。まして、批難を浴びせるなどはもってのほかには違いない。

それは、裏を返せば、市役所職員の方々について、当時のご自身の行為を大きく悔やんだり恥じる必要はないということでもある。思い起こせば、ああすれば良かった、こうすれば良かった、なぜあんなことをしたのだろう、なぜそんなこともできなかったのだろう、等々さまざまに交錯するかもしれない。しかし、「正しい」も「誤り」もなかった。仮にその場にいたのがご自身以外であったとしても、同じ行動がとられた可能性は高い。誰もが薄々の不安を抱くばかりだったのだ。

ところで、私は、幼い日に利根川の渡船を大人に連れられて利用した記憶がある。この震災では、その渡船の乗り場跡からも津波が銚子市内を遡ったという。もしかしたらこれに懲り、川岸を整備しようという話が起きるかもしれない。しかし、歴史の痕跡を失うことの代償も考慮に入れてほしい。かつて利根川の河口は海運の難所と知られ、今でもそれを伝える遺跡がある。江戸時代には津波によって甚大な被害を受けた記録も遺されている。渡船も難破も津波も全てまちの記憶に他ならない。その伝承はむずかしいが、知恵の絞りどころであり、その価値は大きい。

本調査は、まさにさまざまなことを考えさせてくれる。

次の課題は、この調査結果を広めることであり、将来の政策に役立てることに他ならない。とすれば、すなわち自治研活動そのものだ。

私は、本調査を実施した自治労銚子市役所職員労働組合に心から敬意を表するとともに、今後の活動にエールを送る。

(2013 年 9 月 1 日 防災の日に記す)

---

## 編集後記

今回の東日本大震災での体験を記録に残そうという計画は、職員同士の何気ない会話の中から始まりました。「あの時はあんなにたいへんだったのに、みんなそのことを忘れはじめている。これでいいのだろうか?」、こんな素朴な疑問が計画実施のスタートでした。しかし、構想自体は昨年夏の終わりには出来上がっていたものの、なかなか実行に移れず、結局、調査開始は約 9 か月が過ぎた今春となってしまいました。

調査を開始するにあたり、まずアンケートの基本を行政の内側での体験としました。そのため、対象を組合員のみではなく、市の職域（場所）の中にいる方すべてとし、各職場に在職する管理職員、臨時職員をはじめ、消防職員、教育委員会職員に対しても、アンケート用紙を配布しました。また、すでに退職されている方々にも、行政の側にいた立場での回答を期待し、市退職者会の会員全員に配布しました。

記録に残すという大見得を切った以上、開始当初から回収率がとても危惧されましたが、郵送で実施した退職者が 64%、現役職員が 78%、全体で 75%という結果となり、予想以上の反応に胸をなでおろすことができました。

しかし、試行錯誤の中で始めた計画でもあり、終わってみれば反省すべき点も数多くありました。繰り返し繰り返し、質問項目を検討したつもりでしたが、結論的に一番大切だったはずの災害に対する備えの部分が抜け落ちてしまいました。これについては、先行実施した退職者からの回答によって気付かされ、現役職員には質問項目として追加することができました。

今回、「震災を経験し、幸せの価値観が変わった」という意見を複数の方からいただきました。蛇口をひねれば水が出る、スイッチを入れれば電気が点く、こんな当たり前のことに幸せを感じるようになったとの回答でした。私たちはこの当たり前の生活が一瞬にして消えてしまわぬよう、日頃の備えこそ重要だということを再度強く訴えたいと考えています。

また、今調査ではデータ分析も大事ですが、それ以上にたくさんの方々からいただいた貴重な体験談や意見等を重要視することとしました。このことから今回いただいた意見等は、原則、すべて原文のまま掲載することとさせていただきました。

ただし、個人や職場等が特定されるような部分については、一部修正させていただくとともに、内容が同じような意見は可能な限り表現を統一させていただきましたのでご了承ください。また、併せて編集上の誤字、脱字等につきましても何卒ご容赦ください。

最後に今回の取り組みにご協力いただいたすべての方々に感謝を申し上げます。また、東日本大震災により被災された方々と被災地の早急なる復興、復旧を願うとともに、福島第一原子力発電所の事故により、現在も避難生活の続く周辺住民の方々が、一日も早く、慣れ親しんだふるさとの地で元どおりの生活に戻ることを心よりお祈りいたします。

|    |                 |
|----|-----------------|
| 発行 | 2013 年 9 月 10 日 |
| 編集 | 自治労銚子市役所職員労働組合  |
|    | 自治研担当 平 野 寛     |
|    | 常世田 昌 宏         |
|    | 鈴 木 孝 志         |
|    | 自治労千葉県本部        |
|    | 大 網 裕 弥         |

表紙の写真（提供 銚子市） 利根川を逆流する津波  
（2011 年 3 月 11 日 午後 5 時 4 分）



津波により打ち上げられたヨット（市内中央町）



一転、川と化した市役所裏の道路（市内大橋町）

地震概要及び銚子市における被災状況（※銚子市ＨＰより抜粋）

|         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 名 称     | 平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震      |
| 発生日時    | 平成 23 年 3 月 11 日(金) 14 時 46 分頃 |
| 震源地     | 三陸沖(北緯 38 度 東経 142.9 度)        |
| 震源の深さ   | 24 キロメートル                      |
| 地震の規模   | マグニチュード 9.0                    |
| 銚子市の震度  | 震度 5 強                         |
| 津波（最大波） | 2.5 メートル(17 時 22 分)            |

| 人的被害 （人） |           |     |     | 住家被害 （世帯） |     |          |          |
|----------|-----------|-----|-----|-----------|-----|----------|----------|
| 死者       | 行方<br>不明者 | 重傷者 | 軽傷者 | 全壊        | 半壊  | 一部<br>損壊 | 床上<br>浸水 |
| 0        | 1         | 3   | 17  | 30        | 148 | 2,424    | 11       |

※行方不明者 1 名は県外での被災

※住家被害には、工場、倉庫などは含まれていません。



# 鉾子市職労東日本大震災体験アンケート

※当てはまるものに○をして下さい。

I 性別 女性 男性

| II 年齢 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

Q1 あなたは東日本大震災（以下「震災」とする）発生直後になにが思い浮かびましたか？（複数回答可）

- 1 家族の安否
- 2 自宅の状況
- 3 帰宅できるか
- 4 その他（ ）

Q2 あなたは、どこで震災（14：46）に遭遇しましたか？

- 1 職場  
2 自宅以外の場所（具体的に： ）  
3 自宅

Q3 震災当日（勤務終了後）、どれくらいで帰宅できましたか？  
約 時間後（自宅で遭遇された方は記載不要です）

Q4 家族等の安否確認ができたのは、震災発生からどれくらいですか？

- 1    すぐできた  
2    約                      時間後

Q5 震災後、あなたは災害に備え、何か準備していますか？

- 1 している（具体的に： ）  
例 食糧、水、避難用具（ラジオ、乾電池等）、避難場所や経路の確認等
- 2 震災直後はしていたが、現在はしていない
- 3 していない
- 4 その他（ ）

裏 面 へ

Q6 あなたは震災発生後、何をしましたか？

- 1 職務として救援活動に従事した  
2 地域や町内での救援活動に従事した  
3 帰宅した（自宅に留まった）  
4 避難した→{避難所 ・ 高台 ・ その他( )}

Q6で1、2と答えた方にお伺いします。

Q6-① 主にどこで従事しましたか？

- 1 避難所  
2 災害対策本部  
3 救援物資等の運搬  
4 その他（ ）

Q6-② 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？

例：近くのお店から差し入れがあった。

例：いつ交代が来るか、いつ帰れるか心配だった。

Q7 すべての方にお伺いします。

東日本大震災を経験し、自分の周りで見たり聞いたりしたことで、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

ご協力ありがとうございました

## 資 料 編

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                          | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時の職員の対応が速やかで、施設入所者に不安を与えずに行動できた</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波発生時は速やかに高台へ避難</li> <li>・オール電化で停電(長時間)により困ったが、卓上用のガスコンロが役に立った</li> <li>・非常時のそれぞれの避難先を家族の中でも確認しておく必要あり</li> </ul>                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災発生時期(季節、時間)がもっと悪い場合を想定し、救援策をとれるようにすべき</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災直後から情報が分からず、避難した人がいることも夜になって知った</li> </ul>                                                                                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに必要な物(水、食料)が店頭から無くなりやすく、震災後の買いだめ(必要以上)が見受けられた(多少の我慢は必要)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災ラジオをもっと活用してほしい</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯がつながらず家族と連絡が取れなかったため困った</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族も自宅も無事であったことに安心した反面、銚子にまで避難してきた人たちにもう少し手厚い援助の手をさしのべても良かったのではないと思う</li> <li>・職場から自宅への道の信号が点いてなく信号のありがたさをしみじみ感じた</li> </ul>                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・6歳の孫を抱いて外に出て、近所の人たちと余震の恐さに震えていた</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の近くの空き地に近所の人 10 人ぐらいが集まり、余震に怯えながら夜までいたが、地域のつながりこそが大切であると思う</li> <li>・防災訓練は大事であるので、毎年行う必要があると思う(参加者をどうするか？地域ごとのきめ細やかな訓練が必要)</li> </ul>                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・停電が続き、避難先が小学校の体育館の2階だったため、車イスの方を人力で移動させるのがたいへんだった</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を集めて「いきいきサロン」開催中に地震に遭遇。築 45 年ほどの学校解体材を使った建物で、長い揺れの間、もうだめだと思った</li> <li>・停電でテレビが見られないと情報を集めるのが難しいことを実感した</li> <li>・消防団が避難を呼びかけて、消防車が回っていました。考えたすえ避難はしなかった。「たぶん大丈夫だろう」という気持ちがあったのだと思う</li> <li>・今、民生委員をしています、災害時要援護者支援活動は難しいと実感している。市が中心</li> </ul> |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                                                                                                    | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                        | <p>となつて、ねばり強く各団体と話していくことが必要と思う。</p>                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅のある市内東部は断水で、ミネラルウォーターを買いに走ったが、どこも売り切れでたいへん困ったことが思い出される。「給水車」が回っていることを知らなかったので、広報車で周知してほしかった</li> </ul>                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の恐さ(特に津波)</li> </ul>                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつまでこの状況が続くのか心配だった</li> <li>・指揮、命令系統が心配だった</li> </ul>                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の備えも大切であるが、災害時の居場所によってはとっさの判断、行動も必要。素早い情報の取得とともに身を守る術に対する普段の意識付けが重要と感じた</li> </ul>                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所勤務(保育士)のため、とにかく子どもたちを守らねばという気持ちが大きかった。普段から避難訓練は実施しているが、もし建物が崩れてきたら全員をどのように守れるかと命を預かる重さを強く感じ、同時に恐いと思った</li> <li>・電話や携帯が一時不通になり、連絡が取れない中、保護者の方が自主的に子供たちを迎えに来てくれ、無事にかえすことができたので良かった</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺整理など出来ることは速やかにする</li> </ul>                                                                          |
| <p>指揮系統が統一されておらず、混乱してしまった</p>                                                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たち人間も含めすべてが地球という自然の一部であると再認識させられた</li> <li>・日常での備えは最低限必要だが、備え以上の天変地異が起きた時は諦めるしかないのか？</li> </ul>       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・車で移動が多く、ガソリンの手配に苦労した</li> <li>・市役所や避難所で従事していたため、自宅へ帰ることができず、家の中がどのようなになっているか心配だった</li> </ul>                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災を教訓として、改めて職場単位、家族単位、近隣同士で避難等の話し合いをもって、いざという時に現実的な動きがうまく取れるようにしたい</li> </ul>                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場が保育所だったが、保護者が子どもたちを早く迎えに来てくれたので助かった</li> </ul>                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大震災を経験し、今後いつまた起こるかもしれない地震時にこの経験を活かせばいいと思う</li> </ul>                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災家屋が多数あり、どうしていいか判断できず、しばらく頭が混乱した</li> </ul>                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子市は海に囲まれているので、津波から逃れるには即時に高台へ移動すべき。常に備えておき、あわてず行動できるよう日頃から訓練(または確認)しておくべき。「災いは忘れたころにやってくる」</li> </ul> |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                    | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策の動員計画等が役に立たなかった</li> </ul>                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・想像以上に変わり果てた他県の街の情景を映像で見て、無残な瓦礫の山に胸が痛む思いだった。地元銚子はまだ被害も少なかったが、余震が続く中で情報が欲しいこと。不安が続く中で避難場所や食料の確保等近所の方たちと助け合う気持ちが大事である。非常時に若人の集まりこそ「絆」である。今後は忘れられないあの日を思い起こして、お互いに助け合うことが一番大切であると思い願っている</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所にペット(大型犬)を連れて来ていた避難者がいたが如何か</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の危険がある場合、高台等避難先までのルート、避難方法を日頃からイメージしておくべき</li> </ul>                                                                                                                                           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族は出張中で帰宅できず、連絡もとれなかった</li> <li>・民生委員として避難所に出向いた</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所にいた際、一人暮らしの高齢者が高台に住んでいたにも関わらず避難してきていたのが印象的だった。解除されてからも帰宅したくないような感じだった</li> </ul>                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉科学大学野球部員を中心としたメンバーで空きビル(本城町)を無償で借り上げ、救援物資等を集め、被災地(福島、旭市)への輸送に関わった</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「銚子の地盤は強いから少しぐらいの地震は大丈夫。利根川から津波が上がることは絶対にない」と子供の頃から言われて育ってきたせい、銚子は大丈夫という思いだった。今だに避難場所での生活や学校に行きたくても思うようにならない現状の地域も多々あると思うと心が痛む。できることなら、避難訓練等を1回限りでなく、地域みんなで参加し、自分たちで守ろうとする考え方を深めていきたい</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の様子に変化がなかったこと</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震には日頃の備えが大切だと痛感した。特に津波では三陸地方に昔からある教え「津波てんでんこ」ということをみんなが肝に銘じる必要がある</li> </ul>                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的(正確)な指示がないように感じた</li> </ul>                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・断水の連絡がなく、他の状況がわからなかった</li> </ul>                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難してきた住民がとても協力的だった</li> </ul>                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・強い揺れが来たら戸を開ける、危険なところを避けて、落ち着いたら防災リュックを持って高台へ避難する</li> <li>・飯岡町の人たちは一度避難して津波はもう来ないだろうと思って、2時間後ぐらいに帰宅して</li> </ul>                                                                                 |



| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                            | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                | <p>津波に襲われたそうである</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料はどうにかなりそうですが、電気と水が止まってしまうのでトイレがたいへんだと思う</li> <li>・近隣では2日ぐらいしてパン類が不足するようになった</li> </ul>                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の職場（水道）の復旧に従事したが、食料の調達にたいへん苦労した。どこのコンビニに行ってもおにぎりやパンなどは無く、お菓子を買って、それを食べていた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然（津波、地震）の恐さを知った</li> <li>・少額だが、少しでもという気持ちで協力した</li> </ul>                                                                                                                           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ交代がくるのか、いつ帰れるのか心配だった</li> <li>・家族の安否が気にかかった</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・政府の対応の遅さ</li> <li>・東京電力の誠意のなさ</li> <li>・国民及び世界の人たちからの善意の寄付がどのように使われているのか報告がないので明確にしてほしい</li> </ul>                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフラインの復旧がいつになるか不安だった</li> </ul>                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな想定での避難訓練を実施すべき</li> </ul>                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の近くの方からおにぎり等食糧の差し入れがあった</li> <li>・リーダーシップを持った方がいて良かった</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は年1回実施しているが、地震（防災対策、津波対策等）について講話等を行うことも考えては。講師は気象台長等をお願いし、地区別に実施してみても如何か</li> </ul>                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の機能がうまく活かせなかった（指揮命令系統）</li> </ul>                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震後、携帯が通じず情報がすべて遮断された状況に恐怖を感じた・赤坂から自宅まで帰宅しようとしたが、JR,地下鉄等ストップしたままで、徒歩で東京駅まで行ったがデパートの入り口は閉ざされ、コンビニ等も品物が売り切れ状態で食糧の確保に苦労した・銚子までの帰途、国道14号線沿いの一般家庭の方が徒歩で帰宅する人々にお茶等を配っていたことに感動した</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の耐震が必要</li> </ul>                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話が通じない状況で、また公衆電話の少なさに驚いた。情報が把握できないことに恐怖を感じた</li> <li>・帰宅困難となり、歩いている人たちに沿道の小学校の校門で温かいお茶等をふるまう先生たちに感銘を受けた</li> </ul>                                                                |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                               | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の方の炊き出し(避難場所のグラウンド)により、避難者へおにぎりが配られた</li> <li>・炊き出し時には自動車のライトで照らすなど、みんなで協力した</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子は海に囲まれているので、いち早い津波情報を防災ラジオ等で知らせてほしい</li> </ul>                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難された市民の皆さんも不安を持っていたと思うので、知識のあるリーダーの養成が必要と感じた</li> </ul>                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理の重要性を認識した</li> </ul>                                                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場は避難場所ではなかったが、市民が集まってきたので、夜中までその対応に追われた</li> </ul>                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、自分の身が安全であれば、他人を助けることができる。このことから第一に自分の身を守ることが必要</li> <li>・常に水や食糧(保存食)を備えるようになった</li> <li>・津波のことも常に頭に置き、高台への避難も考えるようになった</li> <li>・隣近所の人たちと震災等について話をし、何かあったらお互い助け合う必要があると強く考えるようになった</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の苦情に追われ、いかに住民が不安に過ごしたかが感じられた</li> <li>・災害時にいかに冷静な判断が大切</li> <li>・市民の過度な不安のために必要な業務が妨げられたのも事実</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難道路の見直しをしてほしい</li> </ul>                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・断水したため、水洗トイレの排水(流す水)の確保が問題</li> </ul>                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難は海から離れ、高い所へが何をおいても最優先。そして避難場所を決めておくこと</li> <li>・人智及ばぬことはあるものと肝に銘じ、日々の生活を一步一步アリのごとく生きること。それが当たり前のことであると信じたい</li> <li>・若い人たちの生真面目さと勇気と力を信じたい</li> </ul>                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜中も余震が続き、建物が崩壊するのではないか、津波が来るのではないかと不安が続いた</li> </ul>                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1000年に1回といわれる大震災とはいえ、またすぐに発生する可能性もあるので、早急に防災、減災対策を講じる必要がある。広域的な対策とともに地域単位での対策(町内会単位等)も必要であり、そのための活動(避難訓練、避難用備品購入、食料備蓄)に対し、行政からの支援を実施すべき</li> </ul>                                               |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすれば良いか、具体的な指示もマニュアルもなかったため、自ら考え判断して対応しなければならなかった</li> <li>・避難所となった学校の教職員がとても協力的で様々な場面で助けられた</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あの時の地震の怖さ、恐ろしさ。これからどうなるか、どうしたらいいか何もできなかった。直後は避難袋等も用意していたが、今は中身の確認もしていない。災害は忘れたころにやってくる、この言葉をかみしめています</li> </ul>                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ交代が来るか、いつ帰れるか心配だった</li> </ul>                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災はいつ起こるか予想がつかない。職場においては、常に訓練が必要であり、子どもたちの安全、生命を守ることを職員が自覚していることが必要</li> </ul>                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所対応職員の不足など、実情は計画どおりいかなかった</li> </ul>                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住居は高台にあるため、津波の心配はなかった</li> <li>・近所同士で無事を確認し合った</li> </ul>                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅に連絡(水の確保等)しようと思ったが、電話が使えず、安否確認もできなかった</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後、不安なことだらけで水や電気、食糧等の確保をどうすべきか、本当に大事なことだと思いつつ、また電話もなかなかつながらず、情報についてもどうしたら良いか等考えることが多かった。しかし、日が経つにつれ、意識していくことが薄れていると感じている。毎日の生活を送っていく中で「災害時は〇〇する」という家族間での意識を高めていく必要性を感じている</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所にペットを持ち込まれた</li> </ul>                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の再確認＝住民(高齢者が知らなかった)</li> <li>・当町内では町内住民に改めて避難所を決めた旨連絡し、周知徹底を図った。避難所は地元の高台にあるお寺で安心できる。またお寺と協定を行い、了解を得た</li> </ul>                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所との連絡がとれず、必要な物資がわからなかった。市や避難所の物資が少なく、県の倉庫へ取りに行ったが、かなり時間がかかり、夜遅くになってしまった</li> <li>・情報伝達に問題を感じた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・四日市場から上野町に向かうのに松岸の踏切は通れなくなっていたため、本城町の踏切を渡り、上野町(自宅)まで行ったが、左側車線は大渋滞。仕方なく右側車線を走り自宅に到着した。いざという時の車での移動は避けられないのでとても心配</li> </ul>                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の訓練どおり、津波広報ができた</li> <li>・連絡に際し、携帯電話等が繋がらなかったことが心配</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話が繋がらず、とても困った</li> <li>・各町内会で避難経路を明確にし、指示しておく必要がある</li> </ul>                                                                                                                      |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                                                                                                   | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担が事前に決められていないため、何をするのか、何から手を付けるのかが明確にされてなかった</li> </ul>                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所の職員の対応が良かった</li> <li>・高台では防災無線もなく、情報が入らず不安だった。</li> <li>・足が悪く、避難は車しかない(介護が必要)</li> </ul>     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を摂ることもできなくて、辛かった</li> </ul>                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所が高台ではなかったため、家にいても避難所にいても同じだと避難しなかった人が多かった</li> <li>・震災時は車で避難できたが、高齢になり車が使えなくなったら不安</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が何をすべきか、個々が戸惑ってしまい、指示待ちの状態であまり連携できなかった</li> </ul>                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機会あるごとに地震や津波の怖さを家庭内で話し、常に避難方法等を確認しておく</li> </ul>                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に対する計画がひどかった</li> </ul>                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会施設を借り、毛布等救援物資の備蓄をしておく必要がある</li> </ul>                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所係員の不足</li> <li>・救援物資の調達が遅かった</li> <li>・停電状態で暖房設備が使用不能(石油ストーブも電源がないと使えず、発電機の常備が不可欠)</li> <li>・町内の協力体制(青年団や消防団)に格差を感じた。自分の担当避難所では市職員2名で対応したが、他の避難所では地元の消防団や学校の先生方が協力して避難所の対応をしていた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害は忘れたところにやってくるとの名言とおり、普段からの備えが必要</li> </ul>                                                     |
| <p>消防団員の協力で助けられた</p>                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二度と起こらないことを祈るのみ</li> <li>・地震に自宅で遭遇し、母親の安否を確認しに他の部屋へ行こうとしたが、足がとられて歩行できず、とても不安を感じた</li> </ul>      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・余震の際の庁舎の安全性への懸念</li> </ul>                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内ごとに防災担当(ボランティア)を作り、組長等に連絡できる体制があればいいと思う(例えば、一人暮らし、家以外の変化等)</li> </ul>                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・報道関係者への電話対応に苦慮した</li> <li>・交代要員がおらず、体力が限界に近かった(本部スタッフの不足)</li> <li>・震災発生が勤務時間中であったこと</li> </ul>                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・絆、助け合い</li> <li>・東日本大震災と同じような大きな地震がまた発生した場合、どのように対処したらいいか不安</li> </ul>                           |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                   | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡が取れなくなることにより、パニックが起こる。避難所ごとに名簿を管理する</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子市のメイン道路は R126,R356 であり、ここで土砂崩れや橋の崩壊等があった場合、銚子は陸の孤島になりかねず、支援の人員や物資が滞ることが懸念される</li> <li>・他にもインフラ等心配されることは多くあるが、これらに対処するため、必要な技術職員は確保しておくべき</li> </ul>                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・救援物資(食料、毛布など)が市役所に到達するのに相当の時間を要したので備蓄庫の数を増やすべき</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の共通の避難場所を決めておく</li> <li>・3日ぐらいは自分たちで過ごせるように生活物資を用意しておく <ul style="list-style-type: none"> <li>水、燃料(豆炭、炭、まき、ガス、七輪)、米、味噌、醤油、インスタント食品(ラーメン、カレー、パン缶)、ビニールテント</li> </ul> </li> <li>・自助、共助、公助の順を考えて、一週間ぐらい耐えられればと心がけている</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の避難所で従事していたが、近所の方の差し入れが有難かった</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の映像を何度も見て、他人事とは思えなかった</li> </ul>                                                                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ帰れるか心配だった</li> <li>・信号機が停電で消えている中での救援物資の運搬は不安だった</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験したことのない震災であり、今回のことを踏まえ、日頃から災害用品の準備や避難経路などについて、再度確認した</li> </ul>                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝してくれる人、いろいろ不安がる人、怒る人等いろいろな人がいてたいへんだった</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員生活の最後に大震災を経験したが、自分自身としては全力を尽くして、職場を復旧している。被災された方々には何と言っているかわからない。銚子市は他に比べ、比較的被害が少なかったが、震災以降地震にはかなり神経質になっていると思う。</li> </ul>                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ帰れるか心配だった</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の津波被害は聞いていたが、実際体験すると自分の甘さを感じた。今回は銚子の震度はそれほど大きくなかったが、大地震への対応を改めて考えさせられた</li> </ul>                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報がなく、被災状況がわからない中、避難所への配置に不安を感じた</li> <li>・避難所によって、かなりの温度差があったと感じた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北の人々の生の声やテレビでの映像を将来に残すべき</li> <li>・寄付金の使い方など国からの明確な報告が必要</li> </ul>                                                                                                                                                           |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく寒かった</li> <li>・乳児を連れた方が避難していて、たいへんそうだった</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災時、仕事を優先するか、家族をするかが心配の種である。どうしても仕事中心に行動し、家族のことが後回しになってしまう。電話が通じず、家族の安否を確かめようがなく、困った</li> </ul>                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動、作業についての指示がなく、指示系統がはっきりしていなかった。自主的な行動に任されていた感じがする</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、津波により、多くの命が奪われた。我が家では水槽が大きく揺れ、畳が水浸しになった。また、ガラス戸が開いたり閉まったりし、電柱が大きく揺れているのを見て、本当に怖かった。今でもゴォーという音やぐらぐら揺れるとドキドキする。震災時には停電と断水は必ずあるので、水とライト、卓上ガスは準備しておく必要があると思う</li> </ul>                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示系統や情報がわからず、ただそこにいるだけという感じだった</li> </ul>                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅が被災したので、何から手を付けていいのかわからない状況だった</li> </ul>                                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・役所の担当者がすぐに救援活動に来てくれたのでよかった・寒い時期だったが毛布などの暖をとれる物が少なかった</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身は銚子で生まれ、銚子で生活しており、地域とのつながりがあったため、心強く感じたが、縁あってこの地で生活するようになった方々は、災害時における不安が増幅されていたのではないと思う。市民にとっての拠り所となる場が、日常、非日常にも必要であると感じた</li> </ul>                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・交代要員が少なく、いざという時の対応が遅れた</li> </ul>                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭市飯岡地区での津波による死亡者は直後の第一波ではなく、かなり経過して来た第三波によってだったと聞いている。このことから海岸での津波情報が正しく早く地域の人たちに伝えられることが重要だと教えられた。また、津波、地震等に対し、地域に即した自己判断ができるような防災教育、訓練が必要と感じた。行政の責任としては、その地域独自の検証により、どう具体化したら良いかをまとめて対策（避難対策）を講じてほしい</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・イオンより食糧の提供があり、非常に助かったことを思い出す</li> <li>・震災時、街全体が非常に暗く（雰囲気的にも）なってしまったことが嫌だった。元気づけることも我々の職務であると感じた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ整備に重点を置いた施策の推進が必要。高速道路、橋梁などの早急な点検、補修改良に最善を尽くすべき。</li> <li>・民主党が言う高速道路の無料化等は考えられない。料金を値上げしてもいいので整備に万全</li> </ul>                                                                                               |



| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                  | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                      | を尽くすべきである                                                                                                                        |
| ・停電や携帯電話の不通のため、全体の被害状況がわからず不安だった                                                                                                                     | ・原子力発電の是非について考えさせられた                                                                                                             |
| ・用意されていた毛布等が足りず、寒い思いをした人がいた。避難所に避難した人数が多く、横になることができなかったため、腰痛を訴える人もいた                                                                                 | ・家族の安否の次に近所の高齢者等の安否が心配になった。最近は独居老人が多くなり、その中でも弱者（歩行困難者、高齢で耳の聴こえない人等）の避難をいかにすべきか、たいへん難しい問題である                                      |
| ・いい経験になった                                                                                                                                            | ・普段からの防災訓練は大切。いざという時、何をしたらいいか、身体に覚えさせることは大切と思う<br>・身の回りの整理整頓、特に震災時の身の安全やその後の避難生活等を常に念頭に置いておくべき<br>・家族となかなか連絡がとれなかったのも、通信網の安定等は重要 |
| ・暖房用の灯油の不足<br>・対策本部と連絡がとれなかった<br>・避難所用の食糧が必要分同時に届かなかった<br>・避難所に派遣され、何をなすべきか、マニュアルがまったくなく不安だった<br>・翌日が卒業式だったため、午前9時までに全員退去するよう学校側から言われた（教職員は全員21時で帰宅） | ・ハザードマップの作成と避難経路の確立（安全な道、注意して通る道等を色分け）が必要                                                                                        |
| ・情報不足で市民に聞かれても答えられなかった（断水の状況、ホームページの更新状況）                                                                                                            | ・自然の脅威人間の無力さ                                                                                                                     |
| ・役所に避難してきた市民をおいて、職員が逃げていた<br>・津波対応をしている職員がいなかった<br>・差し入れがあっても救援物資を配っていた職員等には教えてくれなかった（何も食べずにかなりの時間働いた）                                               | ・平地の地域は津波が恐ろしいので、高台を作っておかないと大きな被害が出る。たまたま高台が近くに無かったので津波がとても怖かった。（遭遇場所が海の近くで、周りが平地ばかりだったため）                                       |
| ・情報がなく不安だった（地震、余震、津波、原発などの状況）                                                                                                                        | ・家族全員で避難場所（高台）を決めておく<br>・道路に海拔表示がされているが、常に自分の                                                                                    |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                       | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                           | 頭の中に入れておく                                                                                                                                                                                                             |
| ・規模の大きな余震が来た時の対処が不安だった                                                    | ・復興の足かせになっている放射能の恐怖。土壌、地下水、海洋汚染、ありとあらゆるところに表れ、人々を苦しめている。いつまで続くかわからない。原発に代わるエネルギー政策を再構築すべき                                                                                                                             |
| ・電話、電気が不通だったため、現地と本部との連絡がとれず、作業に時間がかかった                                   | ・津波の時は高台にいち早く逃げるように言われるが、避難所は高い場所になかった。どこに逃げたらよいか等、いろいろなことを考えて避難すべき                                                                                                                                                   |
| ・連絡が取れるまで家族、自宅のことを大変心配しながら勤務していた                                          | ・大自然は人間の想像をはるかに超えるので、原発は極力なくすべき                                                                                                                                                                                       |
| ・家族との連絡が取れず不安だった                                                          | <p>・何より大切なのは「命」であり、「家族」だと実感した。日頃から家族と災害の備えについて話し合っておくことが必要だと思った（何らかの役に立つはず）</p> <p>・日本全体が地震の活動期にあるという今、自然を制することは人間には無理なことなので、何をどう備えたらいいのかわからないのが現実</p> <p>・ドイツのように原発は廃止する方向にいったほうがいい。いったん何かあったら取り返しがつかないものはやめてほしい</p> |
| <p>・いつ帰れるか心配だった</p> <p>・みんなで協力すると大きな力になるということを改めて感じた</p>                  | ・震災後の風評被害があまりにも大きく、過敏になりすぎだと思った                                                                                                                                                                                       |
| ・停電のため、市内が暗く運転が怖かった                                                       | <p>・日頃の訓練が如何に大切か、それにより職員が冷静に対処できていた</p> <p>・建物の耐震化の必要性</p>                                                                                                                                                            |
| ・避難所に避難してきた住民が、「もう帰っていいか」等自己的な行動が見られた                                     | ・津波被害の教訓は後世に伝えるべき                                                                                                                                                                                                     |
| <p>・情報が少ないことが不安だった</p> <p>・避難所は寒さや断水などの不便もあったが、避難してきた人は皆落ち着いていたのでよかった</p> | ・断水のため、トイレが使用できなかった。公共トイレの設置が必要                                                                                                                                                                                       |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                                | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉科学大の学生の協力があって良かった</li> <li>・毛布が足りなかった(1人1枚では無理)が、若い人が譲ってくれた</li> <li>・中国人研修生に対して、言葉が通じなかったため、困った</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の防災訓練が大事</li> <li>・非常事態に備えた情報ツール、食品等の確保</li> </ul>                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元有志による差し入れがとても有難かった</li> </ul>                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・報道により、津波の恐ろしさを強く知らされた。今後、この津波対策に限界はあるとおもうが、行政の重点施策として予算投入する等対応していくことが必要</li> </ul>                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・救援物資等の配布の際、地域の方が協力してくれた</li> <li>・救援物資の配布時、若い人が先に取りに来て、すべて持っていつってしまうため、高齢者への配布が遅くなった。また、配布する前に勝手に持っていつってしまう人もいた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害が生じた状況の写真や慰霊碑、語り伝えを児童、生徒や市民に行っていくべき</li> <li>・津波被害防止策として、避難タワーの建設や各事業所間の災害防止協定等、想定されるすべての施策を短期的かつ計画的に実施することが必要</li> </ul>                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示がコロコロと変わり、どのように動いていいかわからなかった。仕事の目安がなく、何もしない時間もあった</li> </ul>                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波は一波だけではなく、二波、三波と何度も来るので、津波警報が解除になるまでは、家に物を取りに行ったりなど海の近くに近づかないことを改めて自覚した</li> <li>・大地震とその後の余震に恐怖で眠れない日が続いたが、普通に家も食糧もあり生活に不便はなかったが、被災された方々を思うと胸が痛み、テレビ等の報道に涙が止まらなかった</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・午睡中だったので、子どもたちを起こし、安全な場所に避難するよう素早く行動した。保護者が子どもたちを迎えに来るまでそばにいて、迎えに来た時、顔を確認して引き渡した</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、友人、近隣との普段からの付き合いがどれほど災害時に大切かが身に染みだ</li> <li>・近くに不安な気持ちを受け入れてくれる者が必要不可欠。その不安が行政に向けられているように思う</li> </ul>                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所勤務のため、子どもたちを無事に保護者へ引き渡すことができるか、保護者は迎えに来られる状況であるのか、子どもを全員引き渡すまで心配だった</li> </ul>                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波が予想される場合の周知(報道)方法に問題があった</li> <li>・高台への避難に自動車を使用する方が多く、渋滞していた(避難方法の見直しが必要)</li> </ul>                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所で担当者2人でいた時、この状況で再び大地震が来たら、避難している方々をうまく守れるか不安だった</li> </ul>                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・停電や断水が続き、何不自由なく暮らしていた自分たちがいざ災害にあうと何も出来ずに困ってしまった。今回の体験を今後活かしてい</li> </ul>                                                                                                        |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                     | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                         | たいと思っている                                                                                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所と災害対策本部との情報交換ができず困った</li> </ul>                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・動員配備計画に異議あり。役割分担しておきながら、具体的にすべきことや手順などが何も決まっていない</li> <li>・市内の避難所はその地域に住んでいる職員を配置すべき。所属で割り振るのは現実的でない</li> <li>・職員の防災意識を高めるために、市役所でも避難訓練を実施すべき。さらにひとり一人が何をすべきかを明確にした対応マニュアルを作成すべき</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生命がもつか強烈に不安になった</li> </ul>                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は市役所南側駐車場に避難していたが、警報のとおり津波が10m以上だったらと考えると恐ろしい</li> <li>・当日は指示を出すべき人が不在だったため、他に指示を出すべき人(リーダー)が必要だったのでは</li> <li>・危機管理は今も不完全。市民の命が大切なのはもちろんだが、職員、職場の安全に関しては以前とまったく同じで自己責任のままになっている</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所での従事中でも余震が続き、家族の状況が気になった</li> </ul>                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・停電で信号機が消えていたため、物資を取りに行った車が事故を起こしたが、その原因は慣れない車を運転したからではないか</li> <li>・避難所を閉鎖する際、いつまでも食事の配給を求める市民がいたようだ</li> <li>・避難所の開設は学校の教職員がいる時間だったため、スムーズにいったが、夜間に災害があった場合、同じようにできたか不安である</li> </ul>        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・交代がなかなか来なかった</li> <li>・携帯も避難所の電話もつながらず、本部とまったく連絡がつかなかったため、状況がつかめなかった</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の命は自分で守ること」を忘れず、また進んで防災訓練に参加して、地域の皆さんと共に助け合うことが重要</li> <li>・高齢化社会に向けて、一人暮らしの方の支援や避難方法のあり方を考えるべき</li> </ul>                                                                                 |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                                                                                                                | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画が役に立っていない</li> <li>・現場の判断能力が乏しく、行動力もない</li> <li>・今回は小規模だったのでどうにかなったが、市の対応がさらに市民に不安を与えたと思う</li> </ul>                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策本部の訓練が必要</li> </ul>                                                                                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所で一晩勤務したが、度重なる余震と今後の様々なことへの不安で精神的にかなりきつかった</li> </ul>                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所同士での助け合いの必要性</li> </ul>                                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・支給される食糧が多く、廃棄したものもあった</li> <li>・入ってくる情報が少なく、不安だった</li> </ul>                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・30年以内に同規模の地震がまた発生するという思いで考えている</li> </ul>                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画停電が実施されており、夜、真っ暗な中で職務にあたった。また、停電で信号も消え、車の運転がとても怖かった</li> </ul>                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の担当はその地域に居住する職員にすべき</li> <li>・配備計画がまったく改善されず、機能していない。震災直後に行ったアンケートは何だったのか。形だけの避難訓練ではなく、有事の際、本当にできる形の訓練をすべき</li> <li>・職員といえど、自分や家族の命を守りたい。本当に大きな災害があった時、自分の身を守る方法を市民ひとり一人が考えられるよう啓発しなければならない</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団が停電している中、投光器を点けたり、プールの水をトイレに運んだりと活躍してくれた。また、先生方もそれ以上にリーダーシップをもって活躍してくれた。避難している人は身体が動く人も避難民という意識が強く、まったく協力してくれない人が多かった。灯油が切れた時も自らは動かず、係員に灯油がなくなったと報告するだけ。自分さえよければという感じが強く、助け合いの気持ちがなかったと感じている</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真、映像、当時の出来事を記録として残すべき</li> </ul>                                                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のそばにいたかったが、いられなかった</li> </ul>                                                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状把握ができず、困った。施設勤務だったため、電話が通じず、本庁との連絡も途切れがち。避難所ができるほどのものとの感覚もなく、職員は集合しなければならない状態なのかの判断も上司は不要と判断。しかし、後日、手が足りなかったと聞くと判断がつかない場合は、とりあえず本庁へ行った方がいいのかと思った・災害</li> </ul>                                          |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                 | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                     | 時のマニュアルは、あらゆる想定で細かく決めてあった方がいいと感じた                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪かった点は、賞味切れの非常食をだしてしまったこととラジオが電池切れだった</li> <li>・良かった点は従事者が協力し合えたこととお互いに勇気づけあったこと</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育、社会教育の両面で防災教育の充実が必要と感じた</li> </ul>                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の食糧、飲み物が手に入らなかった</li> </ul>                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅はそれほどの被害はなかったが、友達の中には家屋が半壊したり、瓦が崩れたりした。他地域に比べ、銚子はいい方だと安心はしていない。大きな被害を受けた東北の中でも日頃の訓練のおかげで尊い命が助かった方もいる。他人事と思わずに常日頃、どのようにしたらいいか家族や地域の方々と考えておきたいと思っている。機会があれば、ボランティアにも参加したい</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来、担当すべき部署の職員が帰宅してしまったため、その代わりに別の救援活動に従事した</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の引込線が落ちそうになったのを隣人が直してくれた。近所の方との付き合い方は必要と感じた</li> </ul>                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・救援物資の運搬で、市民に配布する水が期限切れだった</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自助は常に意識することが必要で次に共助</li> <li>・電化の見直し</li> <li>・使える井戸の維持、管理</li> </ul>                                                                                                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・救援物資等が避難所に届くのが遅かった</li> </ul>                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活の中で、弾力的に対応できる能力を養うべき</li> </ul>                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策がしっかりしていなかった</li> <li>・職員からの差し入れがうれしかった</li> <li>・情報の伝達がうまくいってなかった</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎の停電により、庁舎内のほとんどのテレビが見ることができず、タイムリーな情報が得られなかった。唯一見ることができた日直室のテレビを玄関前ホールに持っていったことが思い出される。今、何が起きているのか、そしてそれに対する対応はどうすれば良いのか、情報を得る手段を確かなものにしておくべき</li> </ul>                           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と自宅のことが心配だった</li> </ul>                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集を確実にすべき</li> </ul>                                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のことが心配だった</li> </ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに高台や避難所に逃げるべき</li> </ul>                                                                                                                                                           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の安否が心配だった</li> </ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフラインの復旧の見通しが立たないと、市民の不安が加速度的に増大していく。現実的に復旧の見通しを立てることは難しいので、精神</li> </ul>                                                                                                           |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                       | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                           | 的なサポートがあると不安解消になるのでは                                         |
| ・市の担当者と学校現場との連絡調整がうまくいかなかった                                                                                                               | ・地震(津波)は怖い。ばかにできない                                           |
| ・役所全体の指揮命令系統の乱れ                                                                                                                           | ・ライフラインの耐震化は重要                                               |
| ・市役所の動きが遅く(連絡がつかない、救援節胃が届かない)など、避難所に集まった人たちの苦情に対応していた<br>・避難所が高台ではなく、避難誘導に苦慮した                                                            | ・避難所の運営に多くの教員、市民の方の協力があった                                    |
| ・イオンとの災害援助協定が締結されていたので、食糧の確保が確実にできて良かった                                                                                                   | ・地震そのものより、津波の怖さを思い知らされた                                      |
| ・誘導に人手が足らず、ごったがえしていた。また、避難物資(パンやお菓子)が届いた時もすごかった。いくら「並んで順番に」と大声で叫んでもまったく無視。取り合いで倒れる人もいて、とにかくすごかった。<br>・避難所の体育館に当初担当者は2人しかおらず、指揮をとる人もいなかった。 | ・都心で被災。交通網がマヒして、歩いて移動せざるを得ない場合、歩きやすい靴を普段から履いているべき            |
| ・対策本部の指揮命令系統がスムーズでなく、自分たちがどう動くか、自分で判断してよいのか迷った。結果として指示がなかったので、自分たちが必要と思ったことを行った                                                           | ・危機感のなさ意識の低さに驚いた                                             |
| ・近くのお店から差し入れがあった。物資がいつ来るか不安だった                                                                                                            | ・地震より津波についての考え方が変わった                                         |
| ・原発のことが心配だった                                                                                                                              | ・家族等との連絡がとりやすい電話の設置<br>・安全を確保できる避難所の増設<br>・避難所マップの配置         |
| ・ガソリンがいつまでもつのか心配だった                                                                                                                       | ・地震や津波などの甚大さに併せて、避難の大切さや普段からの備えの大切さを伝えていく必要がある               |
| ・主人が救援活動に出ていて、自分は妊娠中で他に小さな子どももいてとても不安だった。公務員ということで夫婦とも救援活動ということも考えられるが、今の状況では無理。災害対策には人員として組み込まれているが難しい。他にも小さな子がいたり、老親がいる人はどうすれば          | ・一人暮らしの高齢者の安否確認について、その方法を検討する余地があると感じた                       |



| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                    | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>良いのだろうかと思った。自分を犠牲にして救助すべきというならば、教訓は生かされていないと感じる</p>                                 |                                                                                                                                       |
| <p>・自宅に子どもを残してきていたので、家のことが心配だった</p>                                                    | <p>・人間は忘れる生き物。いずれこの震災の記憶というのも薄れていくと思われる。この記憶を忘れないようにしていくことが将来に残すべきこと</p>                                                              |
| <p>・まったく知らない人たちと協力し合って活動を行った</p>                                                       | <p>・ライフラインの確保の難しさ</p>                                                                                                                 |
| <p>・毛布が足りなくて、「年寄りがいるんです」と言われた時はどうしたらいいか困った</p>                                         | <p>・避難所(学校、施設)になっているところには、地下タンクのような安全な物で灯油等を蓄えておくことも考えるべき</p> <p>・自転車やリヤカーなども備えてあるといいと思う</p>                                          |
| <p>・いつ帰宅できるか心配だった</p>                                                                  | <p>・津波警報時の避難の方法、場所など家族で普段から話し合いが必要</p> <p>・津波の第一波で安心せず、警報が解除されるまで安全な場所に留まる</p> <p>・家族が3日間は飲食できる物資の用意</p>                              |
| <p>・水と空気はあって「当たり前」がそうでなくなっ<br/>たときの職員の対応の難しさ</p>                                       | <p>・避難所では女性や子供の目線で物事を考えることが大切</p> <p>・窃盗、空き巣などの犯罪</p>                                                                                 |
| <p>・とにかく大変だった</p>                                                                      | <p>・銚子だけではないが、車社会なので避難するにしてもガソリンの確保や道路の混雑が問題</p> <p>・パニックになるほどではないが、水、食糧、電池が不足していた</p>                                                |
| <p>・緊急時、自分が思い浮かぶすべての行動をした。家族との連絡、近所の住民への避難の呼びかけ、飲み水の確保等、震災直後ではあるが冷静かつスピーディーな対応に努めた</p> | <p>・今回、家族の安否は何らかの方法で確認できたが、情報、連絡方法の不備が露見したのではないか</p>                                                                                  |
| <p>・何をしたらよいのかわからなかった</p> <p>・指示をしてくれる人がおらず困った</p>                                      | <p>・電気がつかない、信号機のつかない道路を走ることの怖さ、慣れているはずの道を通るとき、この先は走れるのかと不安な気持ちだったことを今でも忘れられない。</p> <p>・翌日、鹿嶋に行き、ゆがんでいる道路、突き出たマンホール、道路に横になっているコンテナ</p> |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                           | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                               | 車、本当に今まで見たことのない風景でした。鹿嶋で生活していた息子たち家族は断水になってしまい、約1ヵ月間帰ってきていた                                                                                                                               |
| ・指示命令系統がうまく機能しておらず、いらだちを感じた。ある程度、自己判断で行ってしまったところもあり、本当にそれで市民のためになったのだろうかと思う   | ・まさか、このな震災にあうとは思ってもいなかった。何の準備もしていなかった。もしものために、家族で話し合ったり、備えをしておく必要があると感じた。できることならもう経験したくない                                                                                                 |
| ・いつまでその時の状態が続くのか不安だった                                                         | ・それぞれが不安な思いを持って過ごしたと思うが、避難所でたくさんの方々が集まったり、救援活動の人が来たり、一人じゃないと思えるのが一番救いだと思う。一人暮らしのお年寄り等、一人にならないように地域で声をかけていけるようにしてほしい                                                                       |
| ・停電により、配水ができなくなり申し訳なかった<br>・市民が一斉に水を使ったため、濁り水が市中に出回り、水道業務にたずさわる者として迷惑をかけてしまった | ・車のガソリンを手に入れることがたいへんだった。バスの本数が減り、子どもの学校への送迎があり、自分の通勤もあり、自家用車がいつ使えなくなるかと心配だった。今の生活は車なしではいられないと思った                                                                                          |
| ・海の近くにいる人がなかなか避難してくれなかった。船の方が大事だと言っていた                                        | ・家族と避難に対してよく話をするようになった<br>・災害に備え、準備しているものを点検している                                                                                                                                          |
| ・近くの店から差し入れがあった                                                               | ・水が使えないと飲食のみならず何もできないということがわかった。風呂、洗濯、トイレなどすべて水を必要とすることを痛感した<br>・ライフラインを一つのものにすると、それが止まった場合、たいへんなことになることがわかった（LPガスを使用していたので停電でも使えたが、これがオール電化だった場合のことを考えると・・・）<br>・被災地なのに停電（計画？）になったのには驚いた |
| ・避難所などの様子がわからず、連絡体制が確立されてなく不安だった                                              | ・大きな地震の場合は、とにかくすぐに避難すべき                                                                                                                                                                   |
| ・近所の店から差し入れがあった                                                               | ・電気、ガス、水道の有難みがわかった                                                                                                                                                                        |
| ・津波の不安、消防施設倒壊の不安                                                              | ・震災後の時系列的な復旧フロー（基本的ルー                                                                                                                                                                     |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                  | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                      | ル)をあらかじめ定めておくことの大切さを知った                                                                                                        |
| ・広報活動の際、避難を呼びかけたが、大津波(10m)は絶対に来ないから避難しないと言われたため、何もできず、結局広報活動しかできなかった | ・家族だけでなく、友人とも安否確認や避難等の方法を話し合った                                                                                                 |
| ・震災後、家族の安否を確認してから非番参集したが、余震を感じるたび、家族の安否が気になった                        | ・非常時にも落ち着いて対応することが大事<br>・名洗町で津波被害があったので、もう少し記録として残すべき                                                                          |
| ・いつ帰れるか心配だった                                                         | ・将来に残すべきは津波の恐ろしさ                                                                                                               |
| ・救援活動がどれくらいの時間がかかるのか不安だった                                            | ・水の確保や明かりをどうするかなど、家族で話し、どのようにしていくかをお互いに理解できるようになった                                                                             |
| ・近くのコンビニから差し入れがあった                                                   | ・災害の詳細な記録は将来へ語り継いでいかなければならない。この震災を体験し、幸せの価値観が変わった。水が水道の蛇口から流れ、電気スイッチをつけると明るくなる。そんな小さな幸せを感じられるようになった。また、普通に日々暮らすことのできる幸せをうれしく思う |
| ・庁舎の耐震性が低いことを承知していたので、倒壊するのではないかととても怖かった                             | ・防災、減災はムダな公共事業と叩かれまくっても行すべき                                                                                                    |
| ・近くの店から差し入れがあった<br>・車の給油で苦慮した                                        | ・一度目の地震後、管理職からの的確な指示がなかったように思う<br>・窓口にいた来庁者や職員に対して、他課と共通した指示が管理職から欲しかった                                                        |
| ・いつ帰れるか心配だった                                                         | ・津波の恐ろしさがわかった。旭市でも津波被害が大きかったので、知人の話を聞いたりした。、地震後、高台へ避難した人が家の様子を見に帰った方が津波被害にあわれたと…。津波には第2、第3波があるので、しばらくは高台に避難していないといけないと学んだ      |
| ・被害の状況把握のため、帰宅することは考えられなかった                                          | ・銚子市は津波被害が少なかったが、他人事ではないと感じた・放射能汚染が震災当初は心配されていたが、最近あまりニュース等でも聞かないので少し心配                                                        |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                             | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・高齢者から避難所への移動手段について聞かれた                                                         | ・震災時、家族と連絡が取れず困った。集合場所を決めようと話し合いが必要と思った<br>・避難所の確認、食糧の備蓄を徹底しようと思った                                                                            |
| ・津波の避難放送がされているのに、利根川付近に見物に来ている人がいた                                              | ・特に海の近くなので大丈夫と思わずに避難することが大事だと思った<br>・災害が起きた時への備えをしていかななくてはいけないと思っている                                                                          |
| ・職場において、いち早く食糧等の確保を行った<br>・いつ自宅に帰れるのか不安だった(自宅から参集したため)<br>・テレビで東北地方の津波を見て恐怖を覚えた | ・普段から非常時に対する備えや心がけを欠かさないことが大切と思った                                                                                                             |
| ・食糧の確保が困難であった                                                                   | ・津波の体験談を残すべき                                                                                                                                  |
| ・感謝の言葉をいただいた                                                                    | ・千年の一度の大災害なので、極端に防災に走らなくてもいいと思う<br>・広域行政ネットワークを充実させるための、全国市町村間の会議を定期的に行う<br>・コンピュータシステムのバックアップ体制の充実                                           |
| ・近くの店から優先的に食糧を分けてもらった                                                           | ・地域住民の協力体制の充実が大事                                                                                                                              |
| ・津波広報中、海岸へ近づく市民がいたことが残念だった                                                      | ・地震直後はスーパー、コンビニの商品が棚からほとんどなくなり、災害に備え、食糧の確保をしておくことが大切だと思った。時間がたってしまうと忘れてしまいがちだが、このアンケートで思い出すことができた                                             |
| ・情報の正確さが必要                                                                      | ・震災直後は大量の情報があふれ、本当に正しい情報とそうでない情報を区別することがとても難しかったという声がよく聞かれた。マスメディアだけでなく、周りの人々からのものも含め、震災に関する情報をしっかり見分け、なるべく二次的な被害にあわないよう、行動するように心がけることが重要だと思う |
| ・職場(消防)が高い場所でないため、これでいいのかと思った                                                   | ・震災の後は子供が地震が起きるたび、怖がっていた。まだそれは続いている。天災なのでどうしようもないが、このような経験はもうしたくない                                                                            |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                    | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のために近くのコンビニに食糧を購入しに行ったが、ほとんどの食料品が売り切れ。普段購入しないような、とにかく口に入れられるものを買い求めている光景を目の当たりにした</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・叔父、叔母、そしてその孫が津波で亡くなっている。叔父は遺体が見つかっていない。福島原発から 20km 圏内とあって、自分たちで捜すことすらできないでいる。使用済み燃料の処分方法も定まっていない状況で、人間がまだ手を付けていけない領域なのではないかと思う。また、自宅も瓦が落ちたり、いまだ余震の中でどうなるか心配。災害に備えるよう心掛けたいと思う</li> </ul>                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の開設情報が住民にわからなかった</li> <li>・災害対策本部と現場の職員との情報伝達に不備があった</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで生きてきた中で一番恐ろしいことだった。地面が揺れるのを初めて見て、事の重大さを感じた。個人的には飯岡地区に 3 月末、ボランティアで家の片づけに行かせてもらった。今回、銚子は被害も少なかったが、いつ、またあのようなことが来ないとも限らない。日頃から心の準備をしておきたい。</li> </ul>                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコミの情報が東北地方より少なく把握できなかった</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災以前は地震が起きても「すぐ止むだろう、津波は起きないだろう」と根拠もなく、安易な考えを持っていた。3. 11 の際も群馬県に居たので、TV や家族との電話連絡で知るまでは、銚子、また日本の被害の大きさは想像もしておらず、すぐには信じられなかった。3. 11 から時間がたった今、願望も込めて、「もうあんな地震は起こらないだろう」と、つい思ってしまうが、このアンケートを通し、3. 11 の経験を忘れてはならないと再度気付かされた</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ交代できるか、いつ帰れるか心配だった</li> </ul>                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子市は他に比べ、それほど大きな被害はなかったと思うが、ニュース等で津波の映像を見てとてもショックだった。また、多くの犠牲者が出ていることを知り驚いた。東日本大震災は風化させず、語り継がれていくべきだと思う。自然の力の恐ろしさを痛感し、備えることの大切さ、人命の尊さなど学ぶことがたくさんあった</li> </ul>                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・混乱と不安の中、安心した顔が見れたこと</li> </ul>                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から災害時にどうするかということを家族みんなでお話し合っておくことが大切だと思う。</li> <li>・食料も水も日にちがたつうちに意識が薄れてき</li> </ul>                                                                                                                                              |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                   | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                       | <p>てしまっている</p>                                                                                                                                                                      |
| <p>・近くのコンビニから差し入れがあり助かった</p>                                          | <p>・震災直後から断水が続いたが、井戸水と併用していたので、その点では水道だけの家庭よりは助かったが、トイレや風呂は不便だった。なるべく風呂に水をためておくようにはしているが、2年以上経過すると、その意識も薄れつつある。電気や水の有難さを思い出しながら、改めて大切にしていなくてはと思う。ムダ使いはなるべくしないように思っている</p>           |
| <p>・常に家族のことが心配だった</p>                                                 | <p>・救援物資等の運搬に従事したが、当日は国道の状態が良くなかった。香取にある県の備蓄倉庫までの経路を事前に何ルートか確認しておく必要があると思った。</p> <p>・公務員であろうとも集中して救援活動に従事するためには、家族や自宅の状況を確認しなければ無理と思ったので、まずそれらをそれぞれに確認してもらうべきと思った</p>               |
| <p>・大規模な災害の場合、行政だけでは対応不能だと痛感した</p>                                    | <p>・自宅が1か月ほど断水となり、水の大切さを痛感したので、日頃から水と食糧は備蓄を心がけるようになった。もう二度とあんな恐い思いはしたくない</p>                                                                                                        |
| <p>・震度5クラスの地震で崩れる恐れがあるといわれている消防庁舎で一晩過ごすのはとても不安だった</p>                 | <p>・貴重な体験だった</p>                                                                                                                                                                    |
| <p>・家族の状況をしながら気にしながら、職務にあたっていた</p>                                    | <p>・一人、個人の力は限りがある。すべての方の協力、連携が必要</p>                                                                                                                                                |
| <p>・市内の災害状況を把握しやすかった</p> <p>・いつ帰れるか心配だった</p> <p>・家族の食糧や健康状態が心配だった</p> | <p>・市内のスーパーの食料品の棚が空になるほどの買い占めが起きた。おにぎり、パン類が真っ先になくなり、カップラーメン、生鮮食料品が次になくなった。我が家では水とカセットコンロを備えていたので、数日間、自宅の備蓄でしのげたが、食糧の備蓄は各家庭である程度行う必要があると感じたので、「食糧の備蓄」をもっと「震災に対する備え」として呼びかけていいと思う</p> |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                       | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・近くの店等から、とても良い対応をもらった</p> <p>・津波が大きくなったら、どのような対策があるか心配だった</p>                          | <p>・旭市で被災した友達の話だが、津波の警報を聞き、2度避難したものの3度目は「大丈夫だろう」という気持ちで避難しなかったとのこと。するとそこへ津波が来て、彼女は夢中で屋上へ登り、間一髪命拾いをした。屋上から見たものは購入したばかりの愛車が流される様子だった。もっと早く、もっと遠くへ逃げていればと後悔していた。職場ではなかなか自分一人で自由に行動できないこともあると思う。今後どのようにしていくべきか。でも勝手に職場を離れることは難しいと思う。毎日のようにテレビの悲惨な報道を観ていたときは「忘れるはずがない」と思っていたのに、薄れてきている意識の中、このようなアンケートにより、絶対に忘れてはいけないという思いが蘇ってきた。ありがとうございました</p> |
| <p>・災害対策用 TENT を高台の公園に設置し、避難住民に提供をして喜んでもらった</p> <p>・自家用車を海岸近くの駐車場に止めていたため、車両が津波被害を受けた</p> | <p>・震災直後は避難の方法や考え方、準備の仕方等話し合われた。事例やこれからのことへの対策等の開示や本、ニュースが少なく、災害に対し用意しておくべきことなどの話し合いが職場や町内において少ない。国全体での啓蒙が必要である</p>                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>・銚子市は思いのほか、被害が少なくて良かった</p>                                                             | <p>・飯岡の親類宅が津波で流され、3月13日に見に行ったところ、悲惨な状態だった。ボランティア（他市の消防職員）の方が、手際よく片づけをしてくれたと聞き、とても有難いと思った</p>                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>・病院等の収容確認に電話がつながらず苦労した</p>                                                             | <p>・昔、銚子も津波が来たことがあったらしいが、大きな津波が来たらどうになってしまうのか本当に心配だった。帰宅する時、信号が消え、真っ暗だったのがとても怖く、気を付けながら運転した記憶がある</p>                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>・震災発生直後、指示により職員への連絡を携帯メールで一斉送信したが、当日には届かず、翌日になってから届いた</p>                              | <p>・まだ仮設住宅に住んでいる方が、少しでも早く前の生活に戻れたらいいなと思っている。他人事ではなく、自分が同じ立場になったらと思うと不安だ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>・いつ帰れるか不安だった</p>                                                                       | <p>・いまだに地震があるので多少の不安はある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？               | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                   | 突然に来るので怖さがいっぱいある                                                                                                                                                                                                              |
| ・避難所の場所がわからない人が多かった                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲に危険箇所がないか、常に確認するようになった</li> <li>・情報収集を心がけるようになった</li> <li>・家族で話し合う機会が増えた</li> <li>・災害はいつ起こるかわからないので、いつまでも忘れずにいようと改めて思った</li> </ul>                                                  |
| ・津波が心配だった                                                         | ・とても恐ろしい出来事だった。職場は海拔6～7mと低い所だが、幸い津波が来なくて良かった。また同じようなことがあれば、高台に避難すべきと思った                                                                                                                                                       |
| ・最悪の想定                                                            | ・通信、電気、食糧、水の重要性を痛感した。また、建造物の耐震化を強力に推進すべきと思う                                                                                                                                                                                   |
| ・余震の恐怖と闘いながらの救援活動                                                 | ・銚子がいかに地震に対し、強かったかを知ってほしい                                                                                                                                                                                                     |
| ・家族と連絡がとれたが、家がどうなっているか心配だった                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所北側駐車場の一部が津波で冠水</li> <li>・災害対策本部では、所管の部長より他の職員が中心になって指揮していたように思う</li> <li>・銚子でも津波による被害があったが、隣の旭市では13名の犠牲者がでるなど大きな被害があり、知人の家族もその一人となってしまった。津波は恐ろしいということを感じさせられた</li> </ul>           |
| ・津波が来るといわれている中、海岸付近の住民に対して、広報活動をしなくてはならず、こうした災害時の災害対策本部のあり方を検討すべき | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が通学している場合、迎えに行かないと帰れないため、職場にいてもすぐに行けるのか心配である</li> <li>・避難は車ではいけないという思いがあり、避難所へ行く際、年老いた人たちを連れて行くことができず、自宅に家族で留まってしまった。電気、水道が使えたのでよかったが、もし使用できないとなると自宅では無理なので動きがとれるのか心配である</li> </ul> |
| ・家のこと、家族のことがとにかく心配だった。連絡が取れ、家族も家も何事もなかったとわかった時はホッとした              | ・地震大国でありながら、大震災を想定していない社会構造に不安(粗悪な原発など)                                                                                                                                                                                       |



| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？      | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                     |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・いつ帰れるか心配だった                                             | ・千年に一度という未曾有の大災害だったと思う。それに加えて、福島原発の事故により、東日本全体が避難しなければならない事態に陥る可能性があった。日本全体がとてつもない不安に怖れを感じたと思う。この震災を経験したすべての人が語り継ぐべき、義務があると思う。                   |
| ・余震がいつまで続くのか、いつライフラインが復旧するのか不安だった                        | ・幸いにも、銚子市では亡くなった人はいなかったが、市内でも名洗町など被害が甚大な場所があったが、ほとんどの市民に知られていなかった                                                                                |
| ・災害対策本部(エアーテント)が中央みどり公園に設置されている光景を見て、銚子は大丈夫なんだろうかと心配になった | ・地理的な考察から日本は、これからも大きな地震が発生しやすいと思われるが、家族との絆の大切さが報道され、また実感しました。組合活動の中にもたくさんの復興支援の内容が計画、実施されました。現地に赴いた方々には御礼申し上げます。これからも人間らしさを大切にしたい組合活動をよろしくお願いします |
| ・近くのコンビニから差し入れがあった                                       | ・家具の中の物が飛び出したりしていて、後片付けがたいへんだった                                                                                                                  |
| ・いつ帰れるかわからず、携帯も普通だったので、家族のことが心配だった                       | ・デマや誤りの情報が多く、振り回された。ガソリンスタンドの空き状況などわかるはずがない。何にでも行政まかせのところがあて、自助、共助の心得が必要ではないか                                                                    |
| ・電話の不通のため、家族の安否が不安だった                                    | ・のど元過ぎれば・・・で当時用意していた水、食料なども期限切れとなっているかもしれない(確認も怠っている)。月に一度、定期的に見直す日を設けようと思っている。今回は自分の家族や周りの人は大丈夫だったが、「他人事」として切り離していいものではない。常に考えていくべき             |
| ・車両のガソリン不足が心配だった<br>・携帯電話が通じなかったので、あらゆる連絡に苦労した           | ・障害時の施設勤務。当日、障害時は奇声、パニックなどで避難先にいることができず、ほとんどの避難家族は車中で過ごすこととなった。その後、アンケートをまとめ、担当課にも見もらったが、福祉避難所として老人には目が向けられているが障害児に対しても配慮が欲しい。ま                  |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                   | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                       | た、特別な知識を持つ人材も避難所には必要。東北ではそういうボランティアも入っていたしマニュアルもあった。障害のない人もある人も同じ場所にいるための特別な配慮が必要と思う                                                                             |
| ・消防本部や分遣所には職員用の食料や水が備蓄されていない                                          | ・被災時に子供が小さかったり、妻が妊娠していたこともあり、老人を含めた避難弱者に対しての配慮が大切だと感じた。特に食糧(ミルクなど)や衣類(オムツなど)がないと代用できるものがないので非常に問題となる。これを機にもっと市全体で連携を取り直すべきと思う。今は各担当がバラバラに動いていて、まったくまとまりがないと感じている |
| ・夜間勤務中のテレビから流れてくる仙台の火災等の映像にショックを受けた                                   | ・近所の独居老人たちは、顔を知っているみんなと同じ避難所で過ごせたことが安心につながったと言っていた。今回の震災では「たまたま」津波被害が少なかったことを自分たちのところは「津波が来ない」と勘違いしないようにしなくてはならない。そのためにも防災、避難訓練はもっと現実味のあるものを行ってほしい               |
| ・結局、災害対策は行政として何ひとつ準備できていなかった<br>・連絡(通信)手段の不足を痛感                       | ・津波の時には遠くではなく、高い所に逃げるべき<br>・災害に対しての備えはとても大切。水、食糧、明かり等を確保しておく<br>・自分の命は自分で守る                                                                                      |
| ・配置された避難所(学校)での避難民の受け入れ態勢が見事だった。普段から視野を広く持っていることで、この体制が可能になっているのかと感じた | ・家族の安否確認は携帯は使用できなかったの<br>で、メールで行った<br>・職場で待機していたが、停電で電気が使えず不便だった(携帯の充電、トイレ)<br>・職場にテレビ、ラジオ等がなく情報がわからなかった                                                         |
| ・学校の先生方の協力                                                            | ・津波被害の石碑を建立し、後世に残す                                                                                                                                               |
| ・災害の状況等がまったく把握できなかった                                                  | ・妻が妊娠中だったため、水の配給がなかなか取りに行けずたいへんだった                                                                                                                               |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                               | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・両親共、避難所や物資の運搬に従事していて、小学校の子どもは引き渡しだったが迎えに行けなかった。幸いにも友達の父親と一緒に連れていってくれたとのことだったが、子どもの不安は大きかったことと思う</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯社会であるのに、震災時には何も役に立たず、連絡手段を失ってしまった。家族の安否をすぐに確認する、できるためにも、どこで集合して避難するのか、よく話し合っておく必要性を感じた</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・余震がかなり発生していたので、二次被害が心配だった</li> </ul>                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害への備えが重要</li> </ul>                                                                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな情報収集の難しさを実感</li> </ul>                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・液状化被害というものを初めて経験し、被害の大きさに驚いた</li> </ul>                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画停電でJRの運転がその日にならないとわからない状況がしばらく続いた。そんな状況で無理に授業を行っても保護者が貴重なガソリンを使って送迎しなければならない。思い切って、ある程度の期間、休校にしてもよかったのかもしれない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身、過去に例のない体験をし、目の前で津波が通過するのを見た</li> </ul>                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜中、避難所で水道が使えず、トイレを使う人が皆、不便だと言っていたこと</li> <li>・支給された食糧がすぐになくなってしまったこと</li> <li>・たくさんの人が避難所に来ていたこと</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食糧の賞味期限切れをきちんと確認してから避難民に配布すべき</li> </ul>                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの職員が帰宅していたため（主査クラス以下は帰宅するよう指示があったらしい）、避難所対応の職員が非常に不足していた（指揮命令が統一されていなかったため）</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災された方々のことを思うと心が痛みます</li> </ul>                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の状況や救援活動の状況など、いろいろ聞かれても答えられないことが多かった</li> </ul>                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「稲村の火」などを利用し、低学年からの避難訓練が必要</li> <li>・中学校で勤務していたが、生徒がボランティアとしてよく働いてくれた</li> </ul>                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策本部の指示（避難所対応）と所属長指示（帰宅せよ）が異なっており、混乱していた</li> <li>・男性二人で避難所の夜間当番をしたが、女性の避難者には相談しづらいこともあったのではないか</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かあった時、家族で申し合わせておくことが必要である</li> <li>・職場でも年1回ぐらい災害時の対応を訓練しておいた方がいいと思う</li> </ul>                     |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                               | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信手段が途絶されたため、避難所勤務を指示された以外情報がなく、避難所の運営をどのようにすればいいのか途方に暮れた</li> <li>・千葉科学大学生消防隊の先生と学生にたいへん助けられた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波等の警報が出ている場合、危険性のある救援活動に従事する義務はどこまであるのか</li> </ul>                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の施設が古いことから、被災者の満足がいく対応ができず、苦情対応に苦慮した</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡や情報収集に対する備えの重要性和津波の恐ろしさを知った</li> </ul>                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・救援活動をしている人に対し、当初、水すら支給してもらえなかった</li> <li>・対策本部が混乱していて、現場で活動している人が引っ掻き回され、大混乱となった</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市全体、職員全体で市役所としての災害対策を共有すべき。旭市役所は防災訓練を全庁的に行っていると聞いている。市職員に対するヘルメットの支給なども行われておらず、また災害があった場合、混乱すると思う</li> </ul>                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の避難所で住民の方が炊き出しを行うなど、好ましい形での自主活動が行われていた</li> </ul>                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭市の自宅で震災にあい、銚子の実家へ避難するまで津波等の情報がまったくわからなかった。避難途中でその道を通っていたらと思うと、今でもゾッとする時がある。情報が素早く市民等に伝わるようにしてほしい</li> </ul>                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物が崩壊しないかと考えながら作業したため、精神的に疲れた</li> </ul>                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震直後の情報収集として、携帯電話のワンセグとメールが役に立った</li> <li>・コンビニで夕食を買おうとしたら、アメとせんべいしか残っておらず、水や食べ物を手に入れる具体的な方法を調べておかなければならないと感じた</li> </ul>                                           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・近くの店から差し入れがあり、子どもたちが喜んでいた</li> </ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段当たり前のように生活していることが、いろいろなことでつながっている(人のつながりとかライフライン等)ことを意識していなければならない</li> </ul>                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーターサーバーを設置してくれた業者さんがいた</li> </ul>                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では高台までクラスごとに移動する避難訓練を行った。子どもたちひとり一人が自分の足でどのくらいの距離を歩けば、安全な場所まで行けるかが実体験としてわかったと思う。「てんでんしのぎ」という言葉は今まであまりいい意味で使われていなかったように感じるが、自分の命は自分で守るという意識を持つのは大切だと思う</li> </ul> |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                         | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・娘が一人で東京に出かけていて、安否確認ができず心配だったが、職務に従事していたため、対応もままならなかった</li> </ul>                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・三方を海に囲まれている銚子は津波に対する意識を強く持っていかなければならないと感じた。避難ビルは必要であるが、その避難ビルに事前に避難時に持っていく荷物を預けておけるシステムにしてくれると有難い。いざ、荷物を持ったり、リュックを背負って避難することは高齢者などには厳しいと思う。このシステムは先日、NHKで放送されており、東北地方のある市で行うこととなったようである</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ用の水をプールからバケツで運び対応したが、皆で協力でき良かった。地域としてのまとまりを感じた</li> <li>・避難所に指定されていない市内の病院に避難住民が集まったが、病院で食糧を提供してくれたこと</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい情報をいち早く伝えることの重要性を感じた</li> </ul>                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れない仕事のため、不安を感じながら活動した。しかし、今後の活動も考え、勉強だということも考えて参加した</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族で避難中、前後で歩いていた方が、途中で家族が行方不明になってしまった。前にいた方は間一髪、命拾いをし、電柱によじ登って助かった方もいた。銚子は被害が少なくてよかったが、福島のように今でも家に帰れなくなっていたらと思うと原発はいらない</li> </ul>                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担が明確にされていなかったため、本来の目的の業務ができなかった</li> </ul>                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり記録を残し、生かすべき。千年に一度というが、800年に一度の地震が明日あるかもしれない。ぐらっときたら高台へ。最低でも行動を起こす。半年に一度は避難訓練を。</li> <li>・学校ではたまには給食に代えて非常食を食べて、身体を慣らすということも一案</li> </ul>                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・血圧の高い人が多くいた</li> </ul>                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンを入れるのに何時間も並んだ</li> </ul>                                                                                                                                                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所に来ている方はひとり暮らしの高齢者や精神面に不安のある方、また外国人が主で、一般の方は一度避難した後、すぐに自宅や親類宅に移動していた。日常、福祉的な支援を必要とされている方の把握が大切と感じた</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波を見に行く人がいたが、安全な場所へ逃げる</li> <li>・情報の伝達の難しさ</li> <li>・声掛けをする</li> <li>・日本人はすごい！</li> </ul>                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・皆が騒ぐこともなく、落ち着いて行動していたと思う・寒かったので、もっと暖房用品があればと</li> </ul>                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・巨大地震の後は津波が必ず来る！状況がわかるまで、まず高台（できるだけ高い場所）へ避</li> </ul>                                                                                                                                               |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                         | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 思った                                                                                         | 難！津波は絶対来る！                                                                                                     |
| ・自車のガソリンが少なくなった心配といつ帰るか心配だった                                                                | ・当たり前に過ごせる何気ない日常がとても幸せだと実感した。自分にできることは微力でも職場や地域で一丸となればできることがあると思う。これからも小さなことを少しでも続けていけたらと思う                    |
| ・水などの物資の配給の情報が入ってこなかった                                                                      | ・独居老人の安否が気になった                                                                                                 |
| ・災害対策本部との連絡が取れなかった<br>・地域の役員の協力には感謝したい                                                      | ・初めて、とても大きな地震を体験し、当たり前の生活ができなくなる不便さとともに、家族の安全をととても強く願うようになった。今後の生活の中で、何不自由なく過ごせることを感謝していくよう、子ども達に伝えていきたいと思っている |
| ・皆、それぞれ避難所へ行く途中、老人たちを車に乗せて救援した                                                              | ・生活していくために必要な物資、特に水は重要であり、不足する物資をみんなで助け合いながら復旧していくことの大事さを感じている。日常の人との付き合いをもっと大切にしていけばいいと思う                     |
| ・どこの店にも食べ物がなく、家にあった米で炊き出しをした                                                                | ・3・11の記録を残しつつ、今後における地震時に役立てたい。また、この記録を後世の職員に伝え、参考になれば幸いである                                                     |
| ・コンビニなどで食糧を買い占める人、ガソリンスタンドで行列ができ、ハイオクから販売するなどを見て、嫌な思いがした                                    | ・自宅が海岸に近いので、地震が起きたら高台、避難場所に移動するようにしている                                                                         |
| ・保護者に連絡がつかなかったこと<br>・津波を想定した訓練を実施していなかったため、高台への避難について話し合っていなかった。もし、大津波であつたらたいへんなことになっていたと思う | ・官民による素早い対応が必要。各自の震災に対する意識が重要と感じた                                                                              |
| ・自分の子どもの安否確認や迎えに行くことができなかった                                                                 | ・この経験は自分にとって、とても大きな出来事だった。二度とあってほしくない                                                                          |
| ・津波が心配で帰ることができるのか、子どもたちの親は何時に迎えに来るのだろうか？どこに避難すればよいのかがわからなくなった                               | ・犬吠の海面変動からの津波はとても恐ろしかった                                                                                        |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                                                                                                                                                                  | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・この勤務がいつまで続くのか、家族の安否が気にかかった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害記録（映像や写真）が残せなかった</li> <li>・ガソリンスタンドの行列や物品の買い占め等を見て、助け合いの心が重要と感じた</li> </ul>                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく眠れないのと寒さが堪えた</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣組の付き合いなど、普段からつながりをもっておくことが大事だと思った</li> </ul>                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所には教育委員会の職員が配置されるが、大きな震災は初めてだったため、職員も不慣れだったと思う。住民からの要望や質問（食糧は配られるのか？等々）にも、はっきりと答えることができなかった。やはり訓練は必要だと思う</li> <li>・庁舎から避難所である学校に向かう途中の道路にも亀裂が入っていて危険なところもあった。状況判断も必要である（自分自身も危険）</li> <li>・自宅でも棚が倒れたり、食器が割れたりしたが、連日避難所に配備となっていたため、なかなか片づけられなかった</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防施設は海に近く、津波が来たら確実に倒壊してしまうと思った</li> <li>・日本人「きずな」を感じた。日本は震災からの復興に向けて、一歩ずつ進んでいる</li> </ul>                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・停電と電話不通のため、情報収集ができなかった</li> <li>・避難所の備品の中にラジオは必須である</li> </ul>                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民ひとり一人がこの震災で生じた惨劇に対する理解を深め、これからの災害に備える意識を持つことが大事</li> </ul>                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ち的に家族や自宅、実家（宮城）が心配だった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子は人的被害もなく、被害も小さい方だったが、万が一に備え、防災訓練を実施すべき</li> </ul>                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ交代が来るか、いつ帰れるか心配だった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災直後は車の燃料が足りなくなり、一番困ったことが印象に残っている。普段どおりに給油をすれば、同じような事態にはならないと思うので、みんなが冷静な対応をとることが大事</li> </ul>                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・交代スケジュールが明らかでなかった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対策本部や物資等、救援活動がしっかりできるか不安</li> </ul>                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が少なく、避難者からの質問等に答えられなかった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合対策本部の体制、責任、役割の明確化</li> <li>・自治体は国からの支援を待つのではなく、3～5日間くらいは独自で市民への対応が可能となるような体制の整備</li> <li>・「自助、共助」の指導の徹底</li> </ul> |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                             | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても寒かった</li> <li>・当然かもしれないが、避難してきた人たちはかなりいたが、皆、静かで、不安に思っている様子が伝わってきた</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・当地方は周囲が海に囲まれているため、地震により津波の被害が考えられるため、高台への避難が重要</li> </ul>                                                                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・物資を届けて感謝された</li> </ul>                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてのデータ(各自の勤務状況、震災後にかかった経費等)を保存</li> </ul>                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所における救援活動の訓練不足を痛感した</li> </ul>                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンの確保ができない</li> </ul>                                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・運搬の経路、その日のスケジュール等、指示(何をすべきか)がスムーズにはされなかった</li> </ul>                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・この震災は地震の被害より、津波の被害の大きさを感じた。銚子市ではあまり津波による被害はなかったが、津波の恐ろしさを伝えていくべきだと思う。また、ライフラインの脆さも感じたが、今後早い復旧を可能とする対策も構築すべきである</li> </ul>                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者が協力してトイレ用の水をバケツリレーするなど、皆協力的だった</li> </ul>                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理(災害に対し、警察、消防を頼りにしない)</li> </ul>                                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所となった中学校の教員、PTA等がまとまって避難所運営にあたっていて感心した</li> <li>・救援活動従事者が指示を待つだけでなく、積極的、自主的に行動することも大切だと感じた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も大規模な地震が起こる可能性があるとの予測をメディア等を通して耳にするので、うまく対応できるように準備をしておこうと考えている</li> </ul>                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部との連絡がつかなかった</li> </ul>                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大震災の時こそ、行政に頼ることなく、いざという時はまず自分たちで。次に近所の住民と力を合わせ、何事にも対処していかなければならないと思った</li> </ul>                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・招集されてから、どう動けば効率的かが決められていない</li> </ul>                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子市は近隣の市町村に比べ、地震、津波による被害は少なかったが、旭市は津波の被害により亡くなられた方もいるため、高台への避難訓練も当市より多く実施している。銚子市においても地震による津波を想定した訓練を実施して、災害に強い銚子を目指していけたらと思う</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の親が経営する店から差し入れがあった</li> <li>・上司から24時間体制での対応を求められたが、上司自身は帰宅していたこと</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・甚大な被害を目の当たりにして、地震による想定外の自然エネルギーに無力であったことを痛感した。これから災害による被害をできるだけ小さくする減災について、取り組む必要があると考えている</li> </ul>                                    |



| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？                                                                                                                                                                                                                 | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・指揮命令系統の混乱                                                                                                                                                                                                                                                          | ・長い時間の揺れに対して、徐々に慣れていく自分がいた                                                                                                                                               |
| ・近くの飲食店から温かいおにぎりの差し入れがあり救われた                                                                                                                                                                                                                                        | ・大災害に発展した場合、ライフライン等が寸断されることが予測され、消防、警察などの行政とはいえ、現場へ思うように到着できない状況から、地域における隣近所の方同士の協力、連携が欠かせない。また、このような連携、協力を得るには日頃から隣近所との付き合いを大切に、いつ何時でも協力が得られるような付き合い方を心がけることが重要だと痛切に感じた |
| ・市民の様々な要望に対し、対応がすぐにできない、困難であるなど、たいへんもどかしさを感じた                                                                                                                                                                                                                       | ・連絡が取れなくなるので、何かあったら「〇〇」に集合し待機といった意思の統一を図ることが重要                                                                                                                           |
| ・避難所等の交代要員を考慮すれば、もっと多くの職員を配置すべき。特に平日の日中に限定すれば、状況に応じて勤務終了後、要員を職場に待機させるべきと思う。今回の震災時は帰宅した(させた)職員が多く、以降携帯電話等の不通により登庁要請ができなくなってしまった。結果、災害時の配備計画での職員ではなく、職場に残っていた職員による災害対応となってしまった・偶然、避難所要員となってしまったため、当初は物資の配送しかできなかった。避難住民の名簿作成など最低限行うべき任務をマニュアル化し、年に1回程度は配布もしくは公開すべきと思う | ・津波情報が発表された時は、実際の津波の有無にかかわらず、早急に高台へ避難すべき                                                                                                                                 |
| ・避難所はとても寒かった<br>・余震が続いたことから、住民はとても怖がっていた                                                                                                                                                                                                                            | ・自然の恐怖を実感した。二度と体験したくない                                                                                                                                                   |
| ・電気、水道の使用ができないことに対する不安<br>・ガソリン不足                                                                                                                                                                                                                                   | ・災害時の連絡体制の見直し<br>・防災無線の増設                                                                                                                                                |
|                                                                                                                                                                                                                                                                     | ・今回の地震を体験し、万が一の備えがとても大事なことを学んだ。物資が足りない中、皆が協力している姿が本来の日本姿だと思った                                                                                                            |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                           |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | ・自分の子どもを含め、小学生ぐらいの子たちに津波の恐ろしさを伝えるべき                                                                                                    |
|                                                     | ・消防本部庁舎1階は津波で浸水した。震度5の地震は耐えたが、次の大地震も耐えられるとは限らない。早期の新庁舎建設をしてほしい                                                                         |
|                                                     | ・今まで経験したことのない大災害で非常に驚いた。防災職員として、しっかり対応できるよう頑張りたい                                                                                       |
|                                                     | ・東日本大震災で消防、警察、自衛隊の方々が人命救助や捜索活動、復興活動をしているのをテレビや新聞等で見て、消防官になって人のために働きたいという思いが強くなった。また、被災した方々の心の強さや全国の人々が復興に向けて、心を一つにして取り組んでいる姿を見て感動をもらった |
|                                                     | ・市民の防災意識を高めるべき                                                                                                                         |
|                                                     | ・自然災害なので避けては通れないが、個人で準備、さらに行政レベルでの対策の必要性を感じた                                                                                           |
|                                                     | ・助け合いこそ大切だと痛感した                                                                                                                        |
|                                                     | ・今回の地震の記録をしっかり残して、今後の教訓にすべきと思う                                                                                                         |
|                                                     | ・震災はいつ起こるかわからないからこそ、それに向けての準備は全力で行うべき<br>・地域のコミュニティは大切だと痛感した                                                                           |
|                                                     | ・救援物資の期限切れがあり、今後はそのようなことがないことを願う<br>・被災地区や被災状況を子どもたちに伝えてもらいたい                                                                          |
|                                                     | ・自然災害の怖さを思い知らされた                                                                                                                       |
|                                                     | ・津波訓練を実施すべき                                                                                                                            |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水道の断水、計画停電の実施、自動車燃料の供給不足により、補給が困難な状況がしばらく続いたこと。発生から2年を経過した現在も東北地方の被災地の復興が終わらないことを考えると、改めてとてつもなく大きな災害であったことを感じさせられた。また、いつ起こるのかわからない災害に対する備えと心構えの重要性を身をもって体験させられた災害であった</li> </ul> |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波被害に対応した高台の避難所が少ないこと</li> <li>・避難所(高台)への移動手段がないこと</li> </ul>                                                                                                                    |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災を教訓として、年に一度、市内全域で避難訓練を実施し、その際、避難所、津波避難ビル、福祉避難所を開放し、実践的な訓練をすれば、良い経験になると思う</li> </ul>                                                                                        |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家財の転倒防止</li> <li>・避難場所の徹底</li> </ul>                                                                                                                                             |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災はいつ起こるかわからないので備えだけはしておくべき</li> </ul>                                                                                                                                           |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の様子を伝えていく必要があると思う</li> </ul>                                                                                                                                                   |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「災害はいつ起こるかわからない」を胸に！</li> </ul>                                                                                                                                                  |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の方々と共に助け合っていくことが重要</li> </ul>                                                                                                                                                  |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・妻が福祉関係の職場に勤めているが、海岸沿いに位置している。東日本大震災で東北に襲来したような津波が襲ってきたら、妻の職場では甚大な被害が出ることは目に見えている。そうした中、職場では何の対策もとられていない。もう一度、自分たちの置かれている立場をわきまえ、前向きな対応をしてもらいたい</li> </ul>                        |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二度とこのような体験を家族にさせたくないと思うだけ</li> </ul>                                                                                                                                             |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大災害の時は現状把握も困難であり、具体的指示も出さずらく、また興奮しやすい状況である。どうしても職員ひとり一人の自覚ある行動が必要であることを学んだ</li> </ul>                                                                                            |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                              |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | ・何時にも起こりうる災害を皆、実際に経験した。もし、今後再び起こった場合、事前に個人が備えておくことや地域住民が協力していくという意識を持つことが大事だと思う                           |
|                                                     | ・いろいろな団体や個人で被災地への活動をしていたが、それらをまとめて行動ができれば、これからの銚子が変わっていくと思う                                               |
|                                                     | ・津波警報が発表されても急いで避難している人が少ないように感じた。防災無線や消防署の広報がわかりづらく、津波の場合は言葉だけではなく、直感的にわかるよう、波の音を流すなど工夫が必要だと思った           |
|                                                     | ・大地震が発生した場合は、すぐに避難して、なるべく高い所へ避難すること                                                                       |
|                                                     | ・地震発生前、海面が干上がること<br>・地震発生後、大げさな行動で良い(高台に避難するなど)                                                           |
|                                                     | ・建物の耐震の重要性                                                                                                |
|                                                     | ・問題が掲げられているが具体的な対応策が見えてこない                                                                                |
|                                                     | ・自分の子供たちが大きくなった時に、きちんと語り伝えられるように、自分の中で決して忘れないようにしたい。実際にこの銚子にも津波が来たことを伝えたい                                 |
|                                                     | ・避難訓練は必要だが、より現実に即した訓練内容とすべき。地震と津波では避難の場所、方法が違うはず<br>・行政対応(避難所開設等)について、職員の交通手段や距離等を考慮すべき。もっと身近な町内会等との連携が必要 |
|                                                     | ・「死」という観点から、自分の生活を見直してみるが必要だと感じた                                                                          |
|                                                     | ・今回の大震災時対応の総括と今後の備えや発生の対応について、市役所職員すべてが共有するとともに、市民に対しても定期的に周知し                                            |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | ていくことが必要                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                     | ・実践的かつ現実的な避難訓練をすべき                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                                                     | ・銚子のすぐ隣の旭市で大きな被害が出て、死亡者がでたこと・2年以上たってもさら地のままのところが多いこと・銚子でも死者こそ出なかったが、名洗で工場の多くが被災したこと                                                                                                                                                                                                                                   |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・川がすぐ近くなので、すぐ逃げるようにと家族で避難先を日頃から話し合っている</li> <li>・自宅にいてもライフラインの情報がなく、とても不安だった</li> <li>・救難物資の準備（賞味期限や毛布等）を日頃からチェックしておき、いざという時にスムーズにできるようにすべき</li> <li>・市の情報をもっと早く知らせしてほしい</li> </ul>                                                                                            |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の指導力の低さを痛感した</li> <li>・防災メール等はほぼ役に立たないことがよくわかった。仕方がないことにしろ、市民にも周知して、自分たちで判断する基盤を作っていたほうがいいのではと感じる（行政はなかなか認めたがらないが）</li> </ul>                                                                                                                                               |
|                                                     | ・いつ起こるかわからないので、日頃の備えや訓練は必要                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各課、予算がない中での業務だと思うが、防災に関してはもっと融通すべき。災害が起こってからでは遅いということを痛感した今だからこそ、ハード面、ソフト面ともに積極的に改善すべき（耐震能力のない庁舎で働くことは不安）</li> <li>・災害協定が機能しないことも考えて、災害備蓄に介護用紙オムツと生理用品を</li> <li>・市民は公助を手厚くしてほしいと求めるが、現実的には無理。それをどう理解してもらうかが問題</li> <li>・災害時を想定した職員間の情報共有訓練も必要ではないか（動員計画は機能しているのか）</li> </ul> |
|                                                     | ・災害に遭われた方に可能な限り、手助けした                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <p>いと思う</p> <p>・このような震災が二度と起こらないことを願う</p>                                                                                                                                                  |
|                                                     | <p>・日頃の訓練が大切と感じた。窓口にお客様がいるのに、職員が誘導することなく、先に逃げるものがあってはならないと思う</p> <p>・市役所庁舎の耐震も心配。ガラス張りなので、あの時のようにすぐ近くで退避していたのでは危険だと思った。人も情報データも安全な場所に退避させ、たとえ被害にあったとしても、すぐに業務を再開させられる体制を整えておくべき</p>        |
|                                                     | <p>・都市部での帰宅困難者の人数に驚いた。実際は自分も帰宅困難者であり、一番苦労したのは食糧。学校には備蓄食糧もなく、コンビニも食べ物を心配する人で埋め尽くされ、満足な買い物ができなかった記憶がある</p> <p>・都市部の交通網のマヒは、今後の防災施策課題になると思うので将来に残してほしい</p> <p>・備蓄品に関しても管理等の徹底をしてほしいと思っている</p> |
|                                                     | <p>・3.11より前は関東大震災・阪神淡路大震災が身近な震災だった。今回の大震災はそれ自体が貴重な体験である。多種多様な記録が残されているが、人々の記憶は薄れていくと思う。しかし、それは仕方のないことでもある</p>                                                                              |
|                                                     | <p>・当時の映像</p>                                                                                                                                                                              |
|                                                     | <p>・今後発生するであろう房総沖地震による家屋倒壊、津波、液状化等、東日本大震災以上の被害が予想される。倒壊による圧死を防ぐため、住宅の補強、津波浸水区域の把握、避難路の確認、地震保険の加入等、自助による防災が必要</p>                                                                           |
|                                                     | <p>・家具の転倒防止策を講じた方がいいと感じた</p> <p>・飲み水等の備蓄が必要</p>                                                                                                                                            |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる地域では、当日、電気も水道も大丈夫だったが、祖父母の住む香取市では断水もあり、自分の家まで水を取りに来たり、入浴に来ていた。このことから普段から備えておくことが大切だと実感した。食品も買い占めなどで手に入らないこともありたいへんだった</li> <li>・メンタル面でも余震の怖さやこれからの生活のことをたくさん考えた</li> <li>・「将来に残すこと」というと、とても多く書ききれないが、今回の震災のことを忘れず、気を引き締めていきたいと思う</li> </ul> |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職務として救援活動に従事するのは納得しているが、まず家族と連絡し、安否確認をさせてからにしてほしい</li> </ul>                                                                                                                                                                                        |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高台に逃げること</li> <li>・日常での避難訓練を、定期的を実施すべき</li> <li>・防災ラジオの活用（箱のまま開けてないことが多い）</li> </ul>                                                                                                                                                                |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災時、新築の庭の広い友人宅で勉強をしていたが、地震発生後、近所の皆さんが友人宅に集まり、安否確認や情報収集をしていたのを見て、地域間でコミュニケーションを取れるような近所付き合いができることは、何か起きた時には力を合わせられると思った</li> <li>・東日本大震災で1番気になったのは、宮城に引っ越した友人と1週間ほど連絡が取れなかったこと。その友人から聞いた被災地の状況はとてもリアルで、震災は二度と起きてほしくないと強く思った</li> </ul>               |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・たまたま、自分の周辺では大きな被害がなかったもので、今では笑い話になりつつあるが、本当に深刻な辛い目にあった方も大勢いる。話題として口に出す場合は気をつけなければならないと自制している</li> <li>・電車で閉じ込められて一晩を明かし、数日が</li> </ul>                                                                                                              |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | かりで帰宅した身内の安全を心配しつつ過ごしたことも、深刻にはなく、「連絡の大切さ」という方向から教訓として覚えておこうと考えている                                                                                                                       |
|                                                     | ・災害に対しての準備不足から、何もできないかったし、何をしていたのかわからなかった。実際に旭市等の被害を受けた地域では、安全を確保することも難しかったと思う。避難訓練や物資の確保等を再点検し、周知が徹底されることを望んでいる                                                                        |
|                                                     | ・市内全戸(高台居住者を除く)を台地上へ移転させる                                                                                                                                                               |
|                                                     | ・家族は最初に指示のあった避難所から別の避難所に移るよう言われたとのこと。民生委員がひとり暮らしの高齢者宅を訪れ、避難を呼びかけていたようであるが、一緒に避難した近所のほとんどの人たち(高齢者)は別の避難場所には行かず、自宅にいた様子で問題だと思う。比較的危険の少ない地域ではあるが、今後、高齢者や障害のある人をどうするのか、考えなくてはならないと思う        |
|                                                     | ・避難所生活でのルールや助け合うことの必要な事項について、皆が知っていて行動できるような訓練をすべき<br>・小、中学生に教育をしておけば、いいボランティア活動を実践させることができ、地域のマンパワーとしても期待できる                                                                           |
|                                                     | ・香取市在住のため、現在も震災復興が続いている。道路の被害がすごく、まだ2～3年は整備に時間がかかる。毎年行われている佐原の大祭、山車の曳き回しもすることができず、地域住民は悔しい思いをしている。被害のひどかった地域は、これからも山車を曳くことができないのかと考えるととてもつらい。また地震が起こることを考えると、この地域に住み続けることも不安を感じているようである |



| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅は津波に対応できる高い建物がなく、避難場所がないことがわかった。行政に避難場所の確保をお願いしたい。また、1ヵ月間断水が続き苦労した。早い復旧が必要</li> </ul>                                                                                                                                                     |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと職員で災害に備えた訓練をすべき。対策本部にはもっとしっかりしてほしい。各課等で担当になる業務が実際に震災時にできるかどうか、本部が作った防災計画では、具体的な内容が記載されておらず、動きようがないと思う)</li> </ul>                                                                                                                        |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の災害時の備えが必要</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に対する普段の備えが必要</li> <li>・避難できる施設も必要。別に建てるということではなく、常に使っていて、いざという時に活用できればいい</li> <li>・仕事着も動きやすい物を着ていた方がいい。毛布も冬は必要</li> <li>・業者と災害協定もいい。物資はあるし、他市からの配送も受けられる</li> <li>・利根川の堤防が古くなっている</li> <li>・体制を民間とも協力して整えていくべき(専門家を交えて体制を作るべき)</li> </ul> |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・突然、何が起こるかわからないという不安が頭から離れず、勤務時間中は特に利用者の安全面で緊張が続き、一日終わるととても精神的な疲れを感じている(震災当日も利用者の帰宅前だったので…)</li> </ul>                                                                                                                                       |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の恐ろしさ、津波による被害についてを伝えてほしい。しかし、テレビで津波のシーンを見るととても辛い。胸が苦しく、悲しい気持ちが強い。将来に伝える大切さを感じつつ、今だ傷ついて立ち直れない方たちもたくさんいる…</li> </ul>                                                                                                                        |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ起きてもいいように準備しておかなくてはならないと直後は思っていたが、時間の経過で忘れようとしている</li> </ul>                                                                                                                                                                              |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子、旭の津波</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                          |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | ・今までに経験したことのない、ただならぬ地震だった。職場では水は出たが、電気が止まってしまい、ラジオだけの情報でさらに不安が増した。帰り道、信号も消えてしまっていて、早く家に帰りたい気持ちで焦り、長い道のりに感じた                                                                                                      |
|                                                     | ・水が出ないというのは本当に不便だった。考えることなく使っている自分は幸せだと・・・                                                                                                                                                                       |
|                                                     | ・情報を得るのに車のテレビが役立ったが、津波情報が出ているのに、銚子では高台に逃げるのではなく、普通の災害で逃げる場所しかないので、新たな避難場所の必要性を求めたい                                                                                                                               |
|                                                     | ・家族の安否はとても気になること。発生後は個々の知恵で生き抜き、後日どこでどう連絡を取り合うか考えておく必要がある                                                                                                                                                        |
|                                                     | ・家族が文化会館に避難していたのでそこで過ごした。まだ1歳の子がいたので和室を開放してもらい助かった。当日はよかったが、翌朝、水道が止まりトイレは流せず、そのままの状態。人数の多い中、このままでは使用できなくなると思い、職員に段ボールとビニール袋を用意してもらい、汚物用のごみ箱を作り、ペーパーはそこにに入れてもらった。水は池から台車と大きなポリバケツで何回か運び流した。池の近所の方が手伝ってくれ、とても有難かった |
|                                                     | ・自宅の様子がわからず、とても心配であったこと。何時に帰れるかもわからず、とても不安に思った<br>・車のガソリンは半分になると満タンに入れるように、震災後ずっとしている                                                                                                                            |
|                                                     | ・自立、人に頼らないで！                                                                                                                                                                                                     |
|                                                     | ・避難の重要性                                                                                                                                                                                                          |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <p>・東日本大震災を体験し、改めて地震の怖さを知った。巨大地震の後には津波が来ることをテレビの映像を見ることで知り、強烈な印象(ショック)を受けた。母子が津波に流されながら、母が木の枝に子どもを引っ掛けて、母だけが流され子どもは助かったなどという話を聞くにつけ、胸が押しつぶされそうになった。「大きな地震の後には高台へ避難せよ」は語り継いでいく必要があると思う。このアンケートを機に改めて東日本大震災を思い起こし、災害に備える準備を整えていきたいと思った</p> |
|                                                     | <p>・出先ですぐ避難所の場所を聞いたが、避難所はあるが設置されていないとの答えが返ってきて途方に暮れた。食糧はすぐにコンビニで調達できたが、後の人は店を閉めてしまい、買えない方がいた。また、食べ物が並んでいたのに売ってくれなかったという話も聞いた。旅行客にも避難所がわかり、すぐ対応できるようにしてほしいと感じた</p>                                                                        |
|                                                     | <p>・地震の後は津波が来る。高台へ逃げる<br/>         ・車は使わずに逃げるべき<br/>         ・川のそばも危ないので近寄らない</p>                                                                                                                                                        |
|                                                     | <p>・今も余震が度々起きているので、またあのような大きな地震が起こるのではと心配<br/>         ・保育所に勤務しているので、まず子どもたちの安全を願っている</p>                                                                                                                                                |
|                                                     | <p>・連絡を取れないことで不安になることが多かったので、正確な情報、詳細な情報が必要だと思った。海外のニュースでは津波にのみこまれる映像が流れていたようだが、銚子も「海に近い」ということで心配されたようだった・いつでもどんな時でも自分で身を守る力を子どものうちから考えさせたり、行動できるようにしていくべきだと思う</p>                                                                       |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通の暮らし、普段の暮らしができることの有難さを知った。生きて今ここにいられることの有難さ、偉大さを知った</li> </ul>                                                                                              |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の若者たちが連携を取り合い、活躍できる組織があると心強い</li> <li>・銚子市に防災グッズの十分な確保、親切な対応ができたらいと思う</li> </ul>                                                                            |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の様子がわからず、帰宅できるのかどうかわからなかった。状況によっては帰宅せず、様子をみることも必要だったのか、という話をみんなでした</li> </ul>                                                                               |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波がとても怖いということ。早く避難していれば・・・と自分自身思った</li> <li>・準備の大切さ</li> <li>・原発と放射能</li> <li>・コンビニには品物がまったくなく、ガソリンも長い列があり、交通整理までいた</li> <li>・防災無線がもう少し聞きやすいようにすべき</li> </ul> |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族で日頃から避難場所や避難経路について話し合うようになった</li> <li>・いつ大きな災害にあうかわからないので、備えが必要だと感じるようになり、食糧等は準備してある。他人事と思わず、ひとり一人が意識をもって生活してほしい</li> </ul>                                 |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・また来るであろう地震に対して不安が残る。市職員として、人命を助けることができるか？救援活動に従事できるか？自分にできるか不安が残る</li> <li>・水について、出る場所、出ない場所の差が出たので、迅速に対応できる体制を考えることが必要</li> </ul>                            |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <p>・自宅から近い場所で液状化により他県ナンバーの車が動けなくなったため、自宅に戻り、道具を持ってきて救助にあたった。道路幅が狭かったため、二次災害の恐れもあり、自分も必死だったがある意味とっさの判断をし、迅速な対応ができたこと</p> <p>・仕事についても普段から避難訓練を行っているので、冷静に避難できた。しかし、旭や飯岡の津波による被害は大きく、自分も逃げられたか自信はない。ただ、知識として様々な方から聞いた話を念頭において、災害に対する知識も以前より豊かになったと思う</p> |
|                                                     | <p>・有事のためのできる限りの対策</p>                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                     | <p>・祖母の話では家のすぐ手前まで津波が来たと言っていた。年寄りには災害が起きた時、戸惑ってしまい、何をしたらよいのかわからなくなり、危険なところへ避難しようとしてしまったようである。町内などでの役割(リーダーになってくれる人)があると、外で働いている方は少し安心できるかと思う</p>                                                                                                      |
|                                                     | <p>・地震や津波の発生は避けられないものであるが、国や原発関係者、東電の備えがお粗末すぎて、強い憤りを感じる。あの程度の認識で危険な原発を運営して来たのかと思うと、この国は誰も責任を負おうとしない未熟な国に成り下がってしまったと感じる</p>                                                                                                                            |
|                                                     | <p>・地震の時はこの世の終わりかと思うぐらい驚いた。また、いつあのような災害があるかわからないので、日頃の備えが大切だと思う。亡くなられた方たちは無念だったと思う</p>                                                                                                                                                                |
|                                                     | <p>・どこの地盤がゆるいとか、津波がどこまで来たかなどを記録に取り、家や店等を建てる際には制限をかけ、もし次に来た時の被害を最小にできればと思う</p>                                                                                                                                                                         |
|                                                     | <p>・テレビ等で出尽くしている感じはする</p>                                                                                                                                                                                                                             |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の後、停電と断水がおき、情報も入っていないし、携帯の充電もできないしで余計に怖かった。携帯は毎日充電しないといけないと思った</li> <li>・地震直後からスーパーなどですぐに食料品が売り切れていて、日頃から非常食とか水とかを用意しておかないといけないと思った</li> </ul> |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡手段の確保</li> <li>・災害に対する備えをしっかりと</li> <li>・津波の時はとにかく逃げる。決して戻らない</li> </ul>                                                                       |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭市など近隣でも被害があり、テレビのニュース等を見るたびに心が痛んだ</li> <li>・身近なことだが、家族で話し合っ、もしもの時の集合場所を決める、防災用具を準備しておく等、今後に活かしたいと思っている</li> </ul>                               |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生後、津波については一切頭の中に思いもしなかった。自分の居住地では津波により行方不明者も出たが、そのことを知ったのは数日後だった。情報伝達ツールがいかに大切かということ思い知らされたとともに、個人ひとり一人の危機意識の醸成が必要と感じた</li> </ul>             |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・心配ではあるが、どう備えていいかわからない</li> </ul>                                                                                                                 |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震災害では長時間、連続して夜間、深夜までの勤務が発生するため、配備計画等は交替勤務を想定し、作成することが望ましい</li> <li>・避難所を担当する係員は、その地域在住の職員を配置することがよいのでは</li> </ul>                               |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話が数時間もつながらない事態になった時、通行が可能であれば、集まる場所を決めておくこと</li> </ul>                                                                                          |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所を市民の方にわかりやすく、地図などで示し配布する</li> <li>・万一来るに備え、水、食糧などの配給場所を前もって知らせておく</li> </ul>                                                                 |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の安全も大事だが、まず自分の安全を確保することも大事だと思う。</li> </ul>                                                                                                     |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所の確認</li> <li>・災害を軽く見ないこと</li> <li>・みんなが協力できる組織(役割分担がはっきりした)を作っておくこと</li> </ul>                                                                                                               |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一定規模以上の災害の場合、行政の役割は大事であるが、それと同時に住民ひとり一人のじ自助、共助の意識、システムが必要であると感じる</li> </ul>                                                                                                                      |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波なんて来ないだろうと軽く考えて、逃げ遅れてしまった人がいると聞いた。自己で安易に判断せず、注意深く行動することが大事</li> </ul>                                                                                                                          |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災発生後の対応</li> <li>・ハザードマップの作成</li> <li>・ソフト面での防災</li> </ul>                                                                                                                                      |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家族は無事だったので、公務員として救援活動をすることができたが、もし連絡がつかなかったり、何かあった時に平常心でしごとができるか・・・と考えてしまった</li> </ul>                                                                                                        |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的、被害は少なかったが、ガソリンや事業場必要とする物品等の入手が困難となったこと、想定していた以外の仕事の量が多かったこと等、反省、検証が当市は不足している</li> <li>・職員は非常時対応は概ねできていたが、その対策、改善策については、多額の費用を要するものが多く対応できていない</li> <li>・震災時、火災等の2次災害がなく良かったと感じている</li> </ul> |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災写真等の記録を個別配布</li> </ul>                                                                                                                                                                         |
|                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が子どもの頃、祖母が関東大震災の時には西の方の空が1日中夕焼けのように真っ赤だったと話してくれた。今回の3.11震災では幸いにも銚子の被害は少なかったが、昨年冬、宮城県名取市で津波のすごさを自分の眼で見た。銚子へあの津波が来たら、おそらく市街地はすべてダメだったと思う</li> </ul>                                              |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <p>・震災後しばらくは余震があったため、机の下（自宅では台所テーブル）にすぐにかくれるようにしていたところ、1年後に大きな地震があった時も瞬時に対応することができた。普段から訓練しておくことが大切だと思った。頭で考えても身体が動かないので。</p>                                                                                                                                                                                               |
|                                                     | <p>・学生（小・中・高）、すべて入学時に保存食を購入し、学校で保管しておくことはできないか？</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                     | <p>・現実的には難しいことは承知しているが、自分の家族の安否や自宅の状況などを気かけながら任務についていては、本来の力を発揮できない。短時間で構わないので、交代で一度は自宅の状況等を確認させることも考えてほしい。自分は当日夕方、10分ほど帰宅させてもらい、自宅の状況を確認できたことにより、その後は安心して任務につくことができたと感じている</p> <p>・今回のような未曾有の大震災を誰も想定していなかったはずだが、今後のためにも当時任務についた職員から自由な形での意見等を集約すべきではないか。対住民との中での多種多様な出来事があったと思われるため、机上での備えではなく、実際の貴重な体験に基づいた備えを行ってほしい</p> |
|                                                     | <p>・今回、銚子は神栖や香取、旭と比べて、被害が軽微であった。被災後、数週間も近隣市が断水していたことを考えると、こも浦荘等の施設と市バスを活用して、入浴に来ていただくべきだった</p>                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                     | <p>・瞬時に正しい情報が伝わるシステムが必要と痛切に感じた</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                          |



| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <p>・停電や断水により、普段「当たり前」に使っていた物が使えず、水や電気の有難さが身にしみた。避難所にはテレビもラジオもなく、車の中で東北地方の津波被害を知ったが、情報が少なく、とても怖い思いをした・育児休業中だったため、家族(子ども)の安否確認は自分で学校や保育所に行くことができたが、今後また大きな地震が来たら・・・と思うと不安が募る・避難所の運営も学校の先生方や地域の消防団が活動してくれ、特に消防団の皆さんはトイレを流すため、プールから水を夜通し汲んだり、安否確認や利根川沿いを警戒しに行ったりしていた・今後のためにも、3.11の教訓を活かし、有事の際に対応できるようにしたいと思っている</p> |
|                                                     | <p>・写真や映像で記録を残し、災害に対する備えを怠らないようにすべき</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                     | <p>・譲り合いの気持ちが大事であると思った</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                     | <p>・「多分、大丈夫だろう」という気持ちを持たず、冷静に対応することが重要</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                     | <p>・53歳にして初めての体験だった。自分たちのことで精いっぱい、自分の家の家族を守ることだけしか頭になくて、テレビを通してまだ銚子は被害が少なく、被害が大きかった場所はいへんだと思ったが、何もしてやれることがなく、「ガンバレ、ガンバレ」とテレビの前で言っていました。この先、また、と思ったら水と懐中電灯、ろうそくなどはすぐに出せる状態にしてある</p>                                                                                                                              |
|                                                     | <p>・運転中の地震で本当に恐ろしい思いをした。何することもできず、車から降りてただうずくまっている状態だった。建物はぐらぐら揺れ、道路も裂ける状態だった。家へ何とか戻ったが、津波が心配で学校へ一晩避難した。普段から思っただけでもいざとなるとなかなか動けないもの。マニュアル通りにいかないことがつくづく感じさせられた</p>                                                                                                                                              |

| Q6-2 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？ | Q7 東日本大震災を経験し、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください                                                                                               |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                     | <p>・災害の1年後、復興支援の一環で東北旅行に出かけたが、石巻～南三陸までの海岸沿いはテレビなどで見ていたままの、まだまだ災害の足跡が残る現状で無残なものだった。銚子は幸い難を逃れたが、明日は我が身という思いでいっぱいだった</p>                                      |
|                                                     | <p>・東京出張中に地震に遭遇し、すぐに公共交通機関や高速道路はストップ。一時は帰宅困難の心配もあったが、どうにか17時間かかって市役所に帰ることができた。震災後は電話やメールが何時間もつながらなかったのも、地元がどうなっているか非常に心配だった。大災害時にも機能する情報伝達方法の整備をすべきである</p> |